


[List All Images](#)
[Share](#)
[Tweet](#)


1/35 ミリタリーミニチュアシリーズ NO.327

ソビエト戦車 BT-7 1937年型

★エッチングパーツと金属製の牽引用チェーンをセット。
 ★履帯はパーツの一体化を進めた連結組立式。
 ★兵士の人形2体付き。3種類のマーキングを選べます。
 接着剤・塗料別売

RUSSIAN TANK BT-7 MODEL 1937

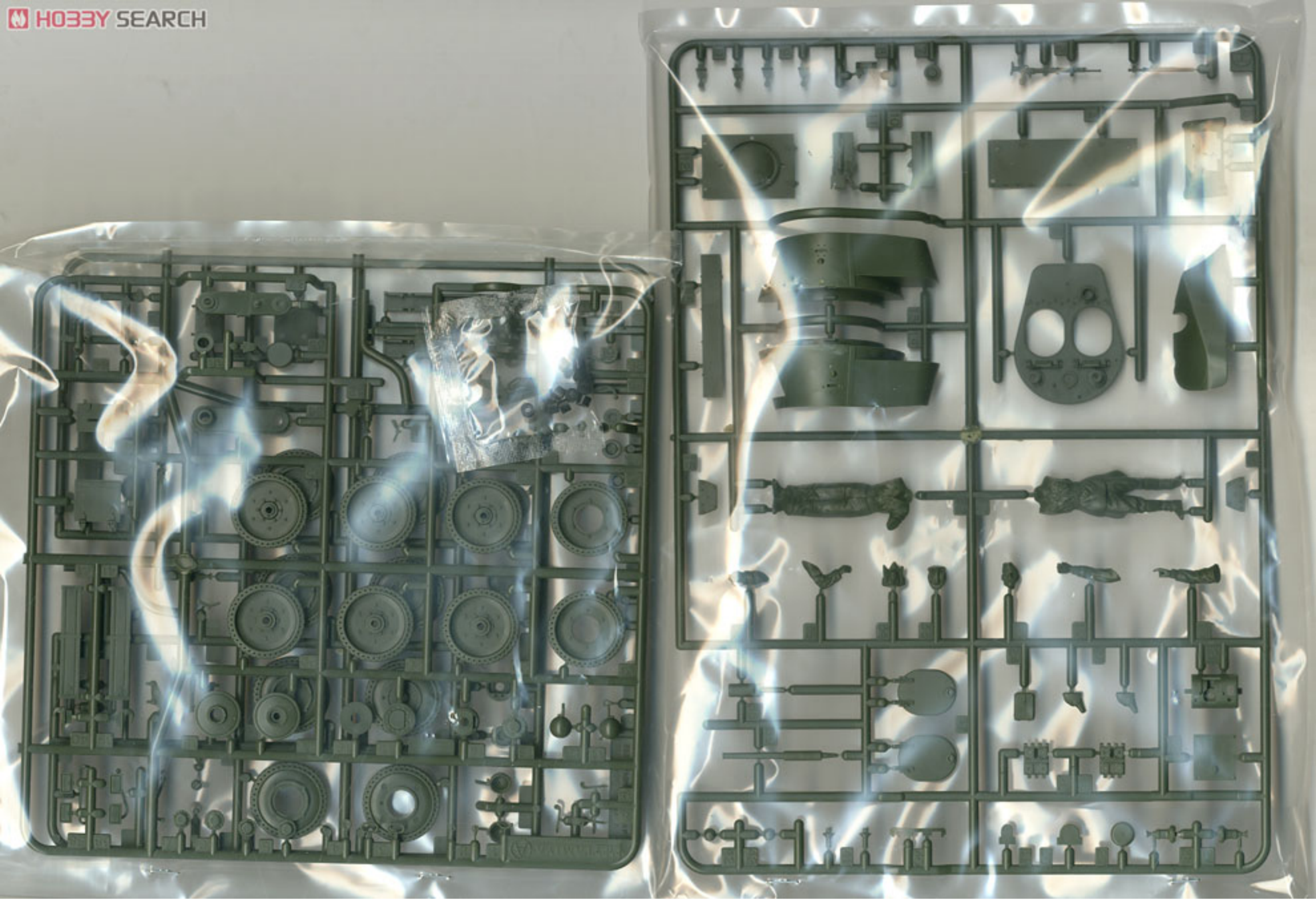
★READY TO ASSEMBLE PRECISION MODEL KIT
 ★MODEL MAY VARY FROM IMAGE ON BOX
 ★DETAILED SCALE MODEL FOR HOBBYISTS
 AGE 14 AND ABOVE. THIS IS NOT A TOY
 ★CEMENT AND PAINT NOT INCLUDED

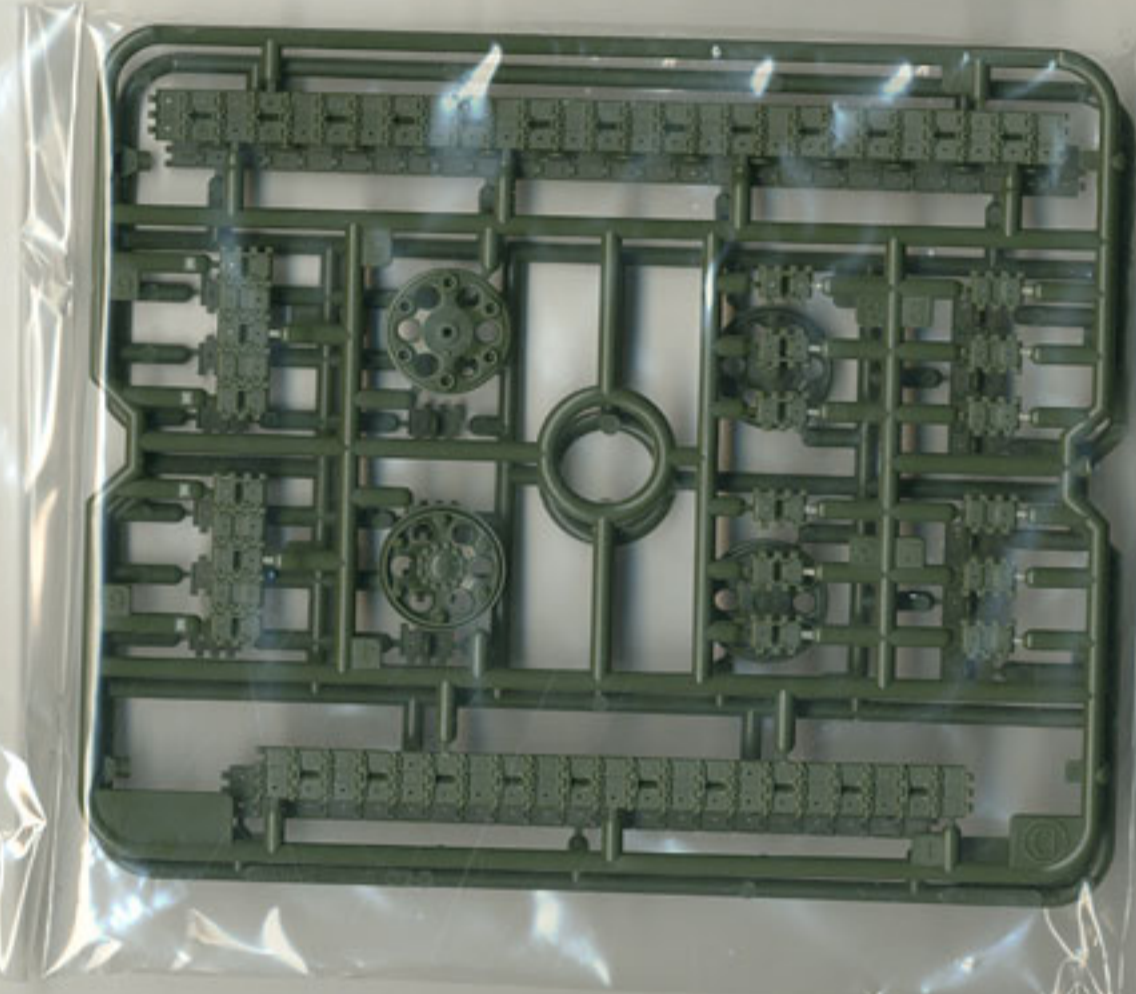
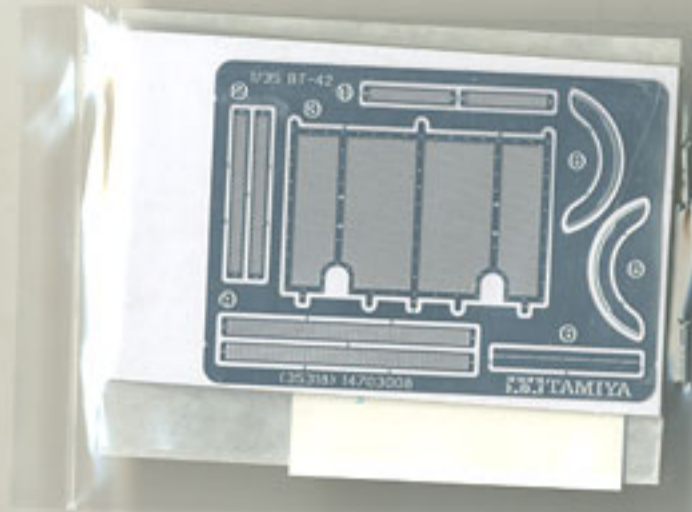


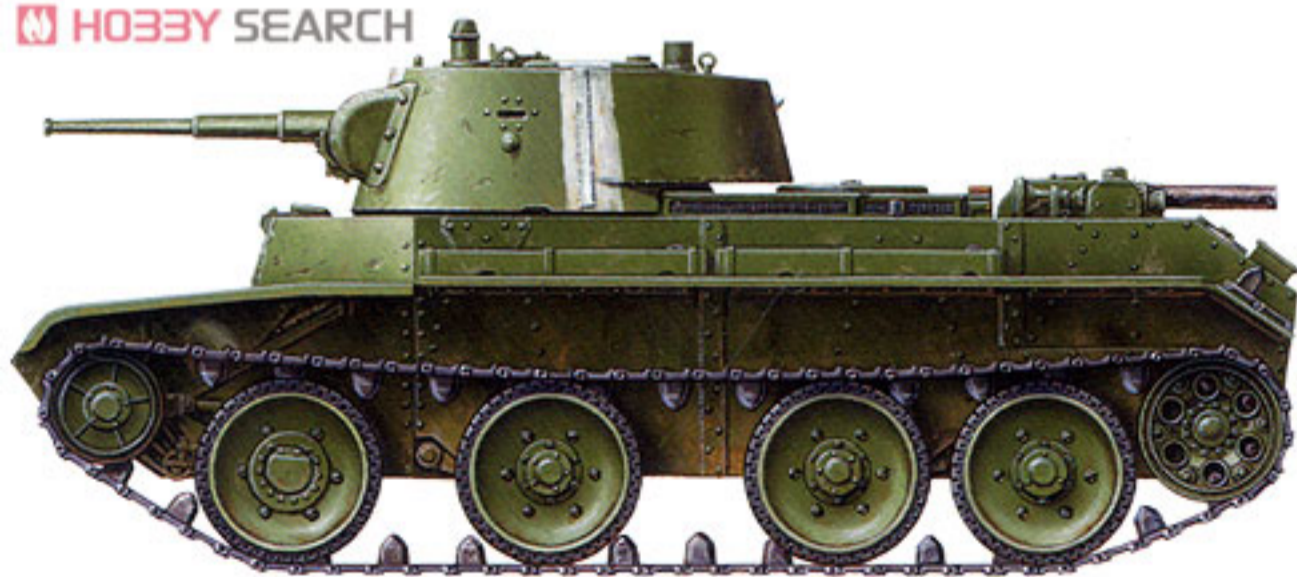
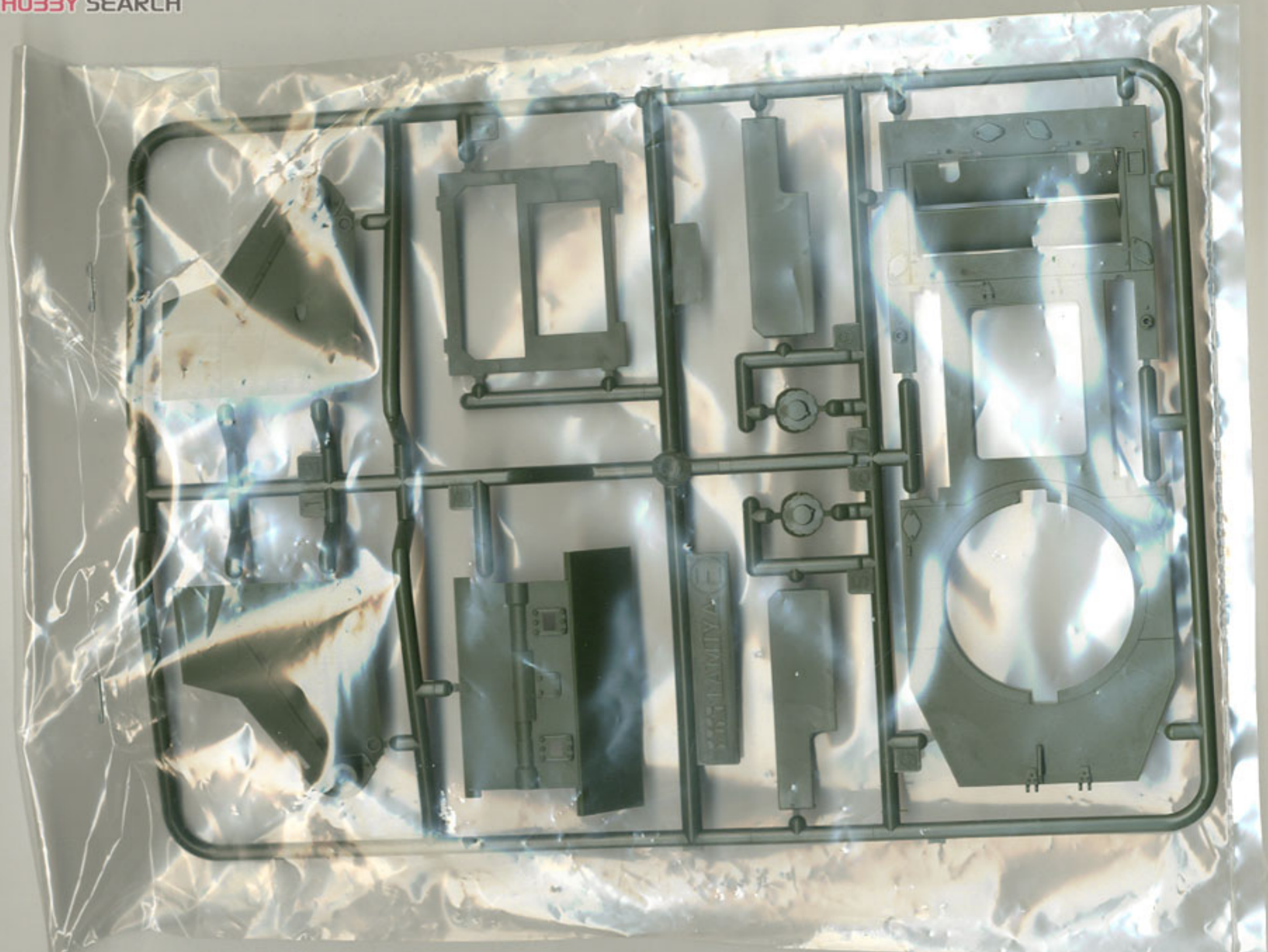
1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.327

★DETAILED STATIC DISPLAY MODEL ★SLOPED ARMOR ON TURRET,
 WEDGE-SHAPED FRONTAL AREA, AND LARGE ROAD WHEELS ACCURATELY
 REPRODUCED ★METAL TOW CHAIN AND PHOTO-ETCHED ENGINE COVER INCLUDED
 ★ASSEMBLY TYPE TRACKS, 2 FIGURES, AND 3 MARKING OPTIONS ALSO INCLUDED



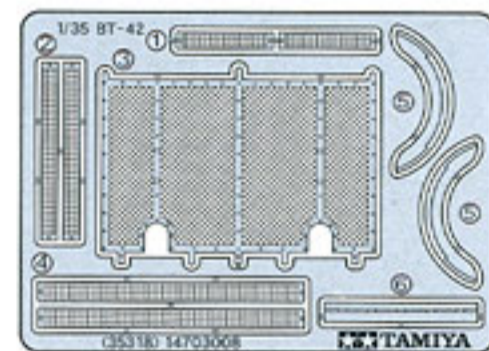






《BT-7 1937年型について》1930年代後半、高い機動性と当時としてはトップクラスの威力を持つ45mm砲、先進的な車体前部の傾斜装甲を兼ね備え、初期のソ連戦車部隊の中核を担った快速戦車BT-7。その防御力を強化した改良型がBT-7 1937年型です。外周が垂直面で構成された従来の砲塔に代わり、避弾経始を考慮した新型砲塔を搭載。そのデザインは後の傑作戦車T34へと発展しました。1939年のノモンハン事件で初めて戦場に姿を現し、独ソ戦が勃発すると強力なドイツ軍を迎え撃って奮戦しました。

《模型要目》BT-7 1937年型の1/35スケール、プラスチックモデル組立キットです。★全長161mm、全幅65mm。砲塔と車体前部に採用された傾斜装甲、大径のロードホイールなど精悍な姿を実感豊かにモデル化。★スプロケットホイールや履帯などは後期型で再現。★履帯は直線部分の一体化を進めた連結組立式。★東部戦線やドイツ軍の鹵獲車輛など3種類のマーキングが選べます。



エッチングパーツ付き ●曲面構成のエンジンルーバーカバーなどはエッチング製。曲げ加工用の治具も用意。
Includes Photo-Etched Parts
 Engine cover mesh is included in the photo-etched parts set. Comes with a jig to ensure correct shape.

RUSSIAN TANK

BT-7

MODEL 1937

ソビエト戦車 BT-7 1937年型

解説: 斎木 伸生

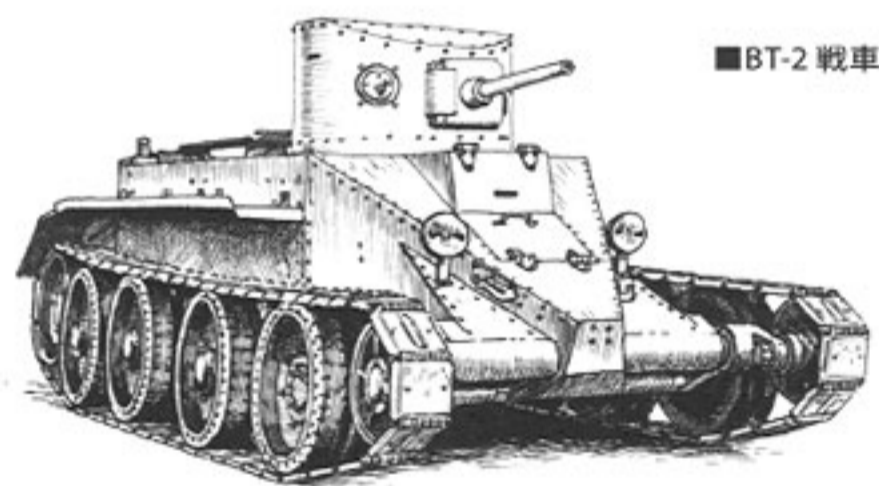
イラスト: 上田 信



BT戦車の開発と発展

1920年代末、ソ連の革命軍事会議は地上部隊の機甲化を推進するため、ドイツの秘密協力による国産戦車の開発を決定。それとともに、優れた戦車の海外からの導入や生産権の獲得に乗り出す方針を打ち出しました。ソ連軍機械化自動車化局のハレプスキー総帥率いる海外調査団によって、イギリスからはピッカーズ6トン戦車などを導入。続いて調査団はアメリカへ向かいました。彼らの前に現れたのが、アメリカの発明家クリスティーでした。彼が提示したのはこれまでの戦車とは全く異なる斬新な車体でした。

この戦車は軽量な車体に大馬力のエンジンを搭載し、クリスティーサスペンションと呼ばれる走行装置と、転輪でも履帯でも走れる装輪・装軌両用走行システムにより、極めて高い機動性を実現していました。これこそは、ソ連軍の縦深打撃作戦構想にふさわしい戦車でした。ハレプスキーは試作車体を購入し、その後ライセンス生産権も獲得。そして1931年2月にはBT-2快速戦車として制式化されたのです。BT-2は1931年11月に最初の車体が完成し、1933年までに620輛が生産されました。



■BT-2 戦車

BT-2は当時としては十分に優秀な戦車でしたが、ソ連軍はその性能に不満を持っていました。BT-2の搭載する37mm戦車砲は、対戦車用にも歩兵支援用にも威力不足と考えられたのです。こうして開発されたのがBT-5戦車でした。BT-5の主砲に選ばれたのは45mm戦車砲でした。この砲はBT-2の砲塔には収めることができず、同じく45mm戦車砲の搭載が決定されたT-26軽戦車と共用の新型砲塔が採用されました。BT-5は1933年の後半より生産が開始され、

1212 ©2012 TAMIYA

1934年までに1,883輛が生産されました。

BT戦車シリーズの最終発展型となったのがBT-7でした。BT-7の開発目的はBT戦車の攻撃力、機動力のさらなる発展で、主砲に76.2mm砲を採用し、エンジンをより信頼性の高いM-17に変更、燃料容量の増加により行動距離を伸ばそうとするものでした。しかし、76.2mm砲の生産不足から武装はこれまでと同じ45mm砲とされ、BT-5の円筒型砲塔が流用されることになりました。これがBT-7 1935年型で、まず1935年から36年にかけて1,544輛が完成しました。

スペイン内戦の戦訓により新型砲塔を開発

1936年7月に勃発したスペイン内戦で、イギリスは中立を守り、フランスは当初人民戦線政権側を支援したものの、やがて中立に転じました。ドイツは空軍コンドル軍団をはじめ、戦車部隊、艦艇、軍事顧問団を送り込み反乱軍のフランコ将軍側を支援。イタリアもスペイン遠征軍と空軍、海軍を送り込んで、フランコ側を全面的に支えました。これに対して、ソ連は人民戦線側を支援して武器、人員を援助し、軍事顧問団を送り込みました。

1936年10月以来送り込まれたソ連製のT-26軽戦車は、45mm戦車砲を装備しており、機関銃しか装備していなかったドイツ軍のI号戦車や、偵察用軽戦車のII号戦車に比べて明らかに勝っていました。しかし、一方で装甲防御力は十分でなく、フランコ側の75mm野砲や37mm対戦車砲で、容易に貫徹されてしまったのです。翌37年に送り込まれたBT-5にしても事情は同じでした。その装甲厚はT-26と大差なく、これらの脅威に対抗することはできなかったのです。

ソ連軍では強靱な装甲防御力を有する新型戦車の開発を開始。それと同時に既存の戦車に関しても、防御力の強化がはかられました。ただし、装甲を大幅に強化すれば重量超過は免れません。それを防ぐため、限られた範囲で装甲防御力が強化されました。そのための方法が、BT戦車の大きな特徴の一つである傾斜装甲でした。これは同じ厚さの装甲板でも、傾ければその分防御力が増すという手法です。

この方法が取り入れられたのは砲塔でした。これまでの円筒形砲塔に対して、新たに採用されたのは、砲塔の外周を15度傾斜させた砲塔でした。この砲塔はその目的をよく表す「防弾強化砲塔」と呼ばれました。この砲塔を搭載した、いわゆるBT-7 1937年型は1937年夏頃から生産を開始。

BT-7は1937年に628輛が生産されましたが、このうち何輛が1937年型であるかははっきりしません。一方1938年から39年にかけての生産数は2,439輛となっています。

BT-7は、この後その最終発展型としてディーゼルエンジン装備のBT-7Mが開発されますが、その後生産はT34中戦車に切り替えられることとなります。T34は第二次大戦で最高の傑作戦車の一つと評価されますが、実は防御力の強化に有利な傾斜装甲、クリスティーサスペンションによる高い機動性等々、多くの特色はBT戦車から引き継がれたものでした。BT戦車は時代の狭間に出現しましたが、その果たした役割は非常に大きなものだったのです。



BT-7 1937年型の戦い

1930年代末のソ連軍では、粛正されたトハチェフスキー元帥が主導していた戦車軍団は解体されてしまい、戦車部隊も最大で旅団単位にまで縮小されていました。このためBT-7 1937年型も、これらの戦車旅団に分散配備されました。BT-7 1937年型は、特に1935年型と区別されることなく、同一の部隊に混成して配備されました。

BT-7 1937年型にとって初の実戦となったのは、1939年に勃発したソ連軍と日本軍の大規模な国境紛争、ノモンハン事変でした。ノモンハン事変では8月以降、ソ連軍司令官のジューコフ中将が日本軍に決定的な打撃を加えるべく戦力の大々的な増強をはかりましたが、このときBT-7は特に第6戦車旅団、第11戦車旅団に配備されたことが知られます。このうちの第11戦車旅団は、損害の穴埋めにハリコフ工場で作成したばかりのBT-7を受領しており、そこには多数の1937年型が含まれていました。

次にBT-7 1937年型が投入されたのは、1939年9月のポーランド侵攻でした。BT戦車は各型数百輛が参加していますが、特にリボフに入城した第24戦車旅団には、BT-7 1937年型の装備が確認できます。この戦いはすでに崩壊の淵にあったポーランドを背後から衝いたもので、BT-7はその機動力をいかに発揮する機会に恵まれました。ただ

し、装甲防御力の弱さゆえに手痛い打撃を受けています。

続いてBT-7 1937年型が戦うことになったのは、1939年～40年のソ連軍のフィンランド侵攻、冬戦争でした。冬戦争では第13戦車旅団、第20戦車旅団がBT-7 1937年型を装備しており、後に第1戦車旅団も受領しています。これらの部隊はすべて、ソ連軍の主攻勢地域となったカレリア地峡に展開しました。

1940年夏、ソ連軍は再び機械化軍団の編成を開始しました。すでにBT-7は旧式化が進んでいましたが、新型のT34やKV戦車の不足を補うため、まだ多数が配備されていました。機械化軍団には全部で1,031輛の戦車が配備されることになっていましたが、実にその1/3の316輛はBT-7だったのです。独ソ戦の勃発時には西部国境軍管区には2,801輛ものBT-7（各型含む）が配備されており、これはソ連軍戦車の中でT-26に次ぐ多数を占めていました。

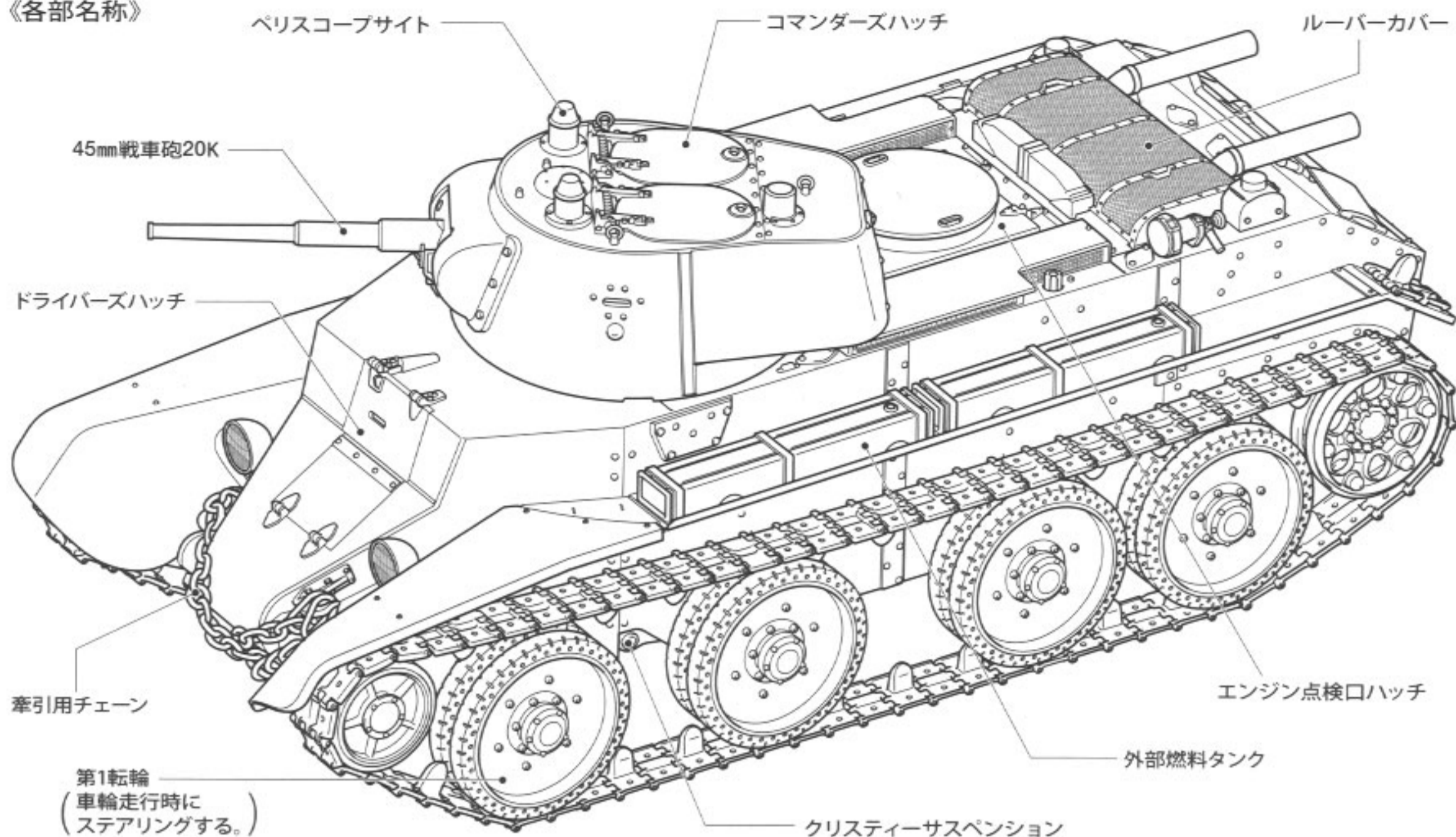
1941年6月22日、ドイツ軍の侵攻開始に際して、ソ連軍戦車部隊は出動準備が整っていませんでした。それでもいくつもの部隊が、果敢にドイツ軍を迎え撃ちました。BT-7装備部隊としては、リトアニアのネマン川で防衛戦闘を行った第5戦車師団、プスコフ防衛戦でドイツ軍戦車隊列を強襲した第24戦車師団が知られ、これらの部隊がBT-7 1937年型を装備していたことはほぼ確実です。

また、1941年秋にドイツ軍ゲデーリアン上級大将のモスクワ突進をムツェンスクで迎撃した、カツコフ大佐の第4戦車旅団には、T34やKV戦車と並んでBT-7 1937年型が配備されていたことが確認できます。その後も、T34などが十分に配備されるまで戦い続け、1944年までその姿を見ることができました。そしてBT-7 1937年型にとって最後の戦場となったのは、1945年8月、はるか極東でのことでした。日ソ不可侵条約を破棄して満州へと奇襲侵攻したソ連軍部隊の先鋒となり峻険な興安嶺山脈を突破したのは、なんと彼ら「ベテューシカ（BTの愛称）」たちだったのです。

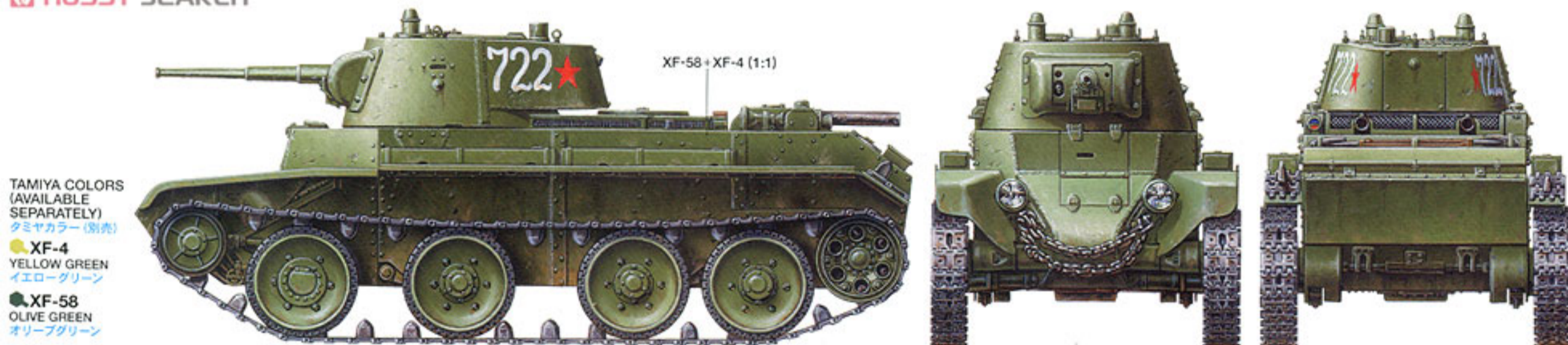
《BT-7 1937年型 諸元》

- 全長：5,660mm ●全幅：2,230mm ●全高：2,420mm
- 全備重量：13.9トン ●乗員：3名
- エンジン：M-17TV型12気筒液冷ガソリンエンジン
- 最大出力：400馬力
- 最大速度：73km/h (装輪) 53km/h (装軌)
- 航続距離：500km (装輪) 375km (装軌)
- 武装：45mm20Kモデル1934×1 (188発)
7.62mmDT機関銃×2 (2,394発)

《各部名称》



BT-7 Model 1937 (11053577)



PAINTS REQUIRED

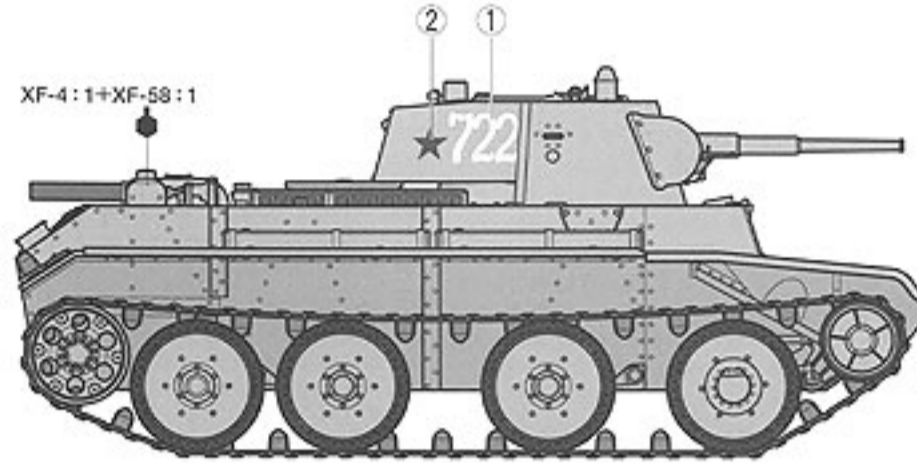
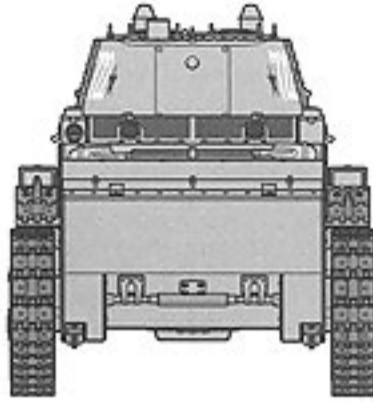
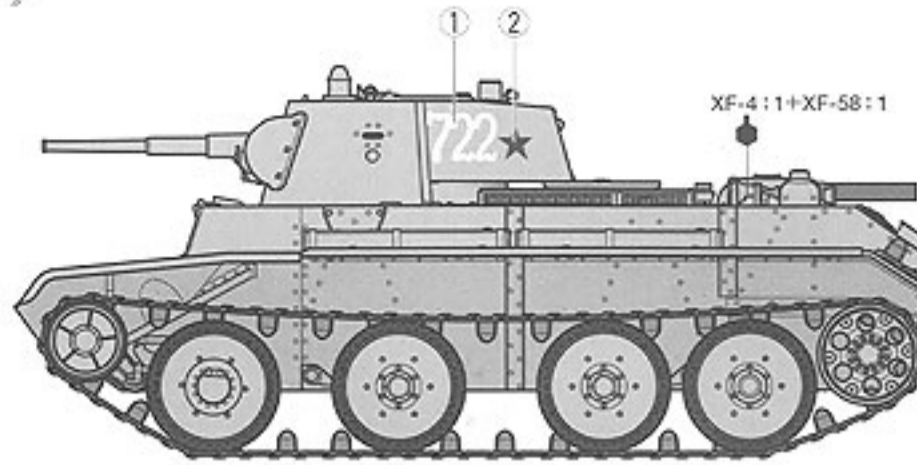
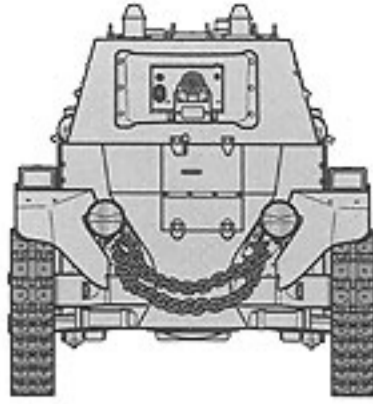
● 塗装指示のマークです。タミヤカラーのカラーナンバーで指示しました。
 This mark denotes numbers for Tamiya Paint colors.

X-10 ●ガンメタル / Gun metal / Metall-Grau / Gris acier
 X-11 ●クロームシルバー / Chrome silver / Chrom-Silber / Aluminium chromé
 XF-1 ●フラットブラック / Flat black / Matt Schwarz / Noir mat

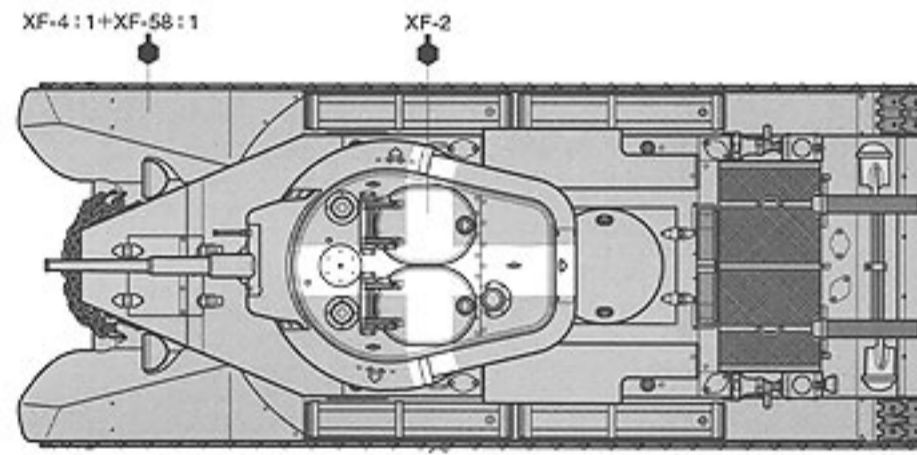
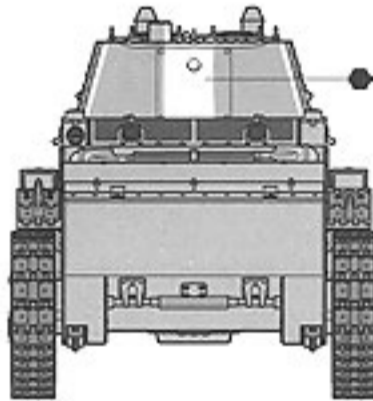
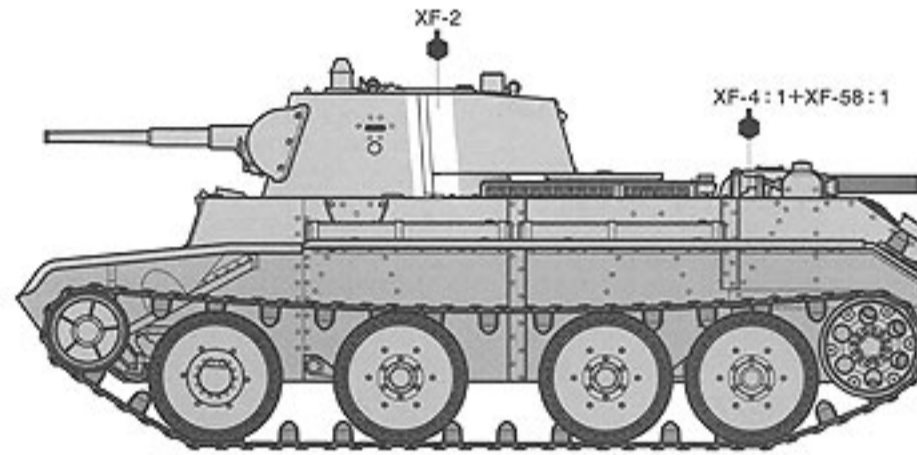
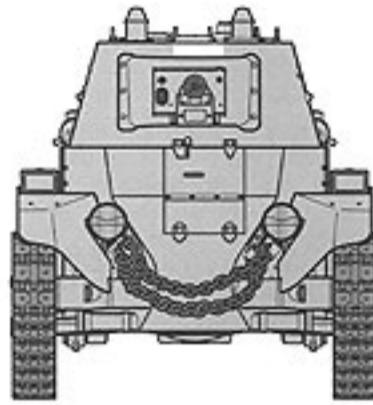
XF-2 ●フラットホワイト / Flat white / Matt Weiß / Blanc mat
 XF-4 ●イエローグリーン / Yellow green / Grüngelb / Vert jaune
 XF-7 ●フラットレッド / Flat red / Matt Rot / Rouge mat
 XF-8 ●フラットブルー / Flat blue / Matt Blau / Bleu mat
 XF-10 ●フラットブラウン / Flat brown / Matt Braun / Brun mat
 XF-15 ●フラットフレッシュ / Flat flesh / Fleischfarben / Chair mate

XF-49 ●カーキ / Khaki / Khaki / Kaki
 XF-56 ●メタリックグレイ / Metallic grey / Grau-Metallic / Gris métallisé
 XF-58 ●オリーブグリーン / Olive green / Olivgrün / Vert olive foncé
 XF-64 ●レッドブラウン / Red brown / Rotbraun / Rouge brun
 XF-84 ●ダークアイアン(履帯色) / Dark Iron / Dunkels Eisen / Fer Fonce
 XF-85 ●ラバーブラック / Rubber Black / Gummischwarz / Noir Caoutchouc

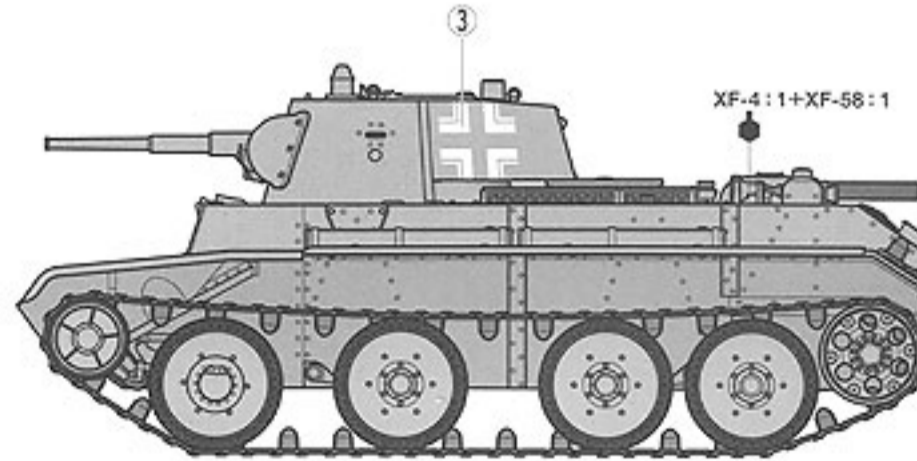
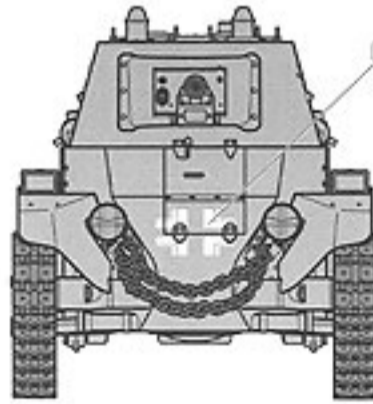
A 《所属部隊不明 1943年夏 レニングラード》
Unit unknown, Leningrad, Summer 1943



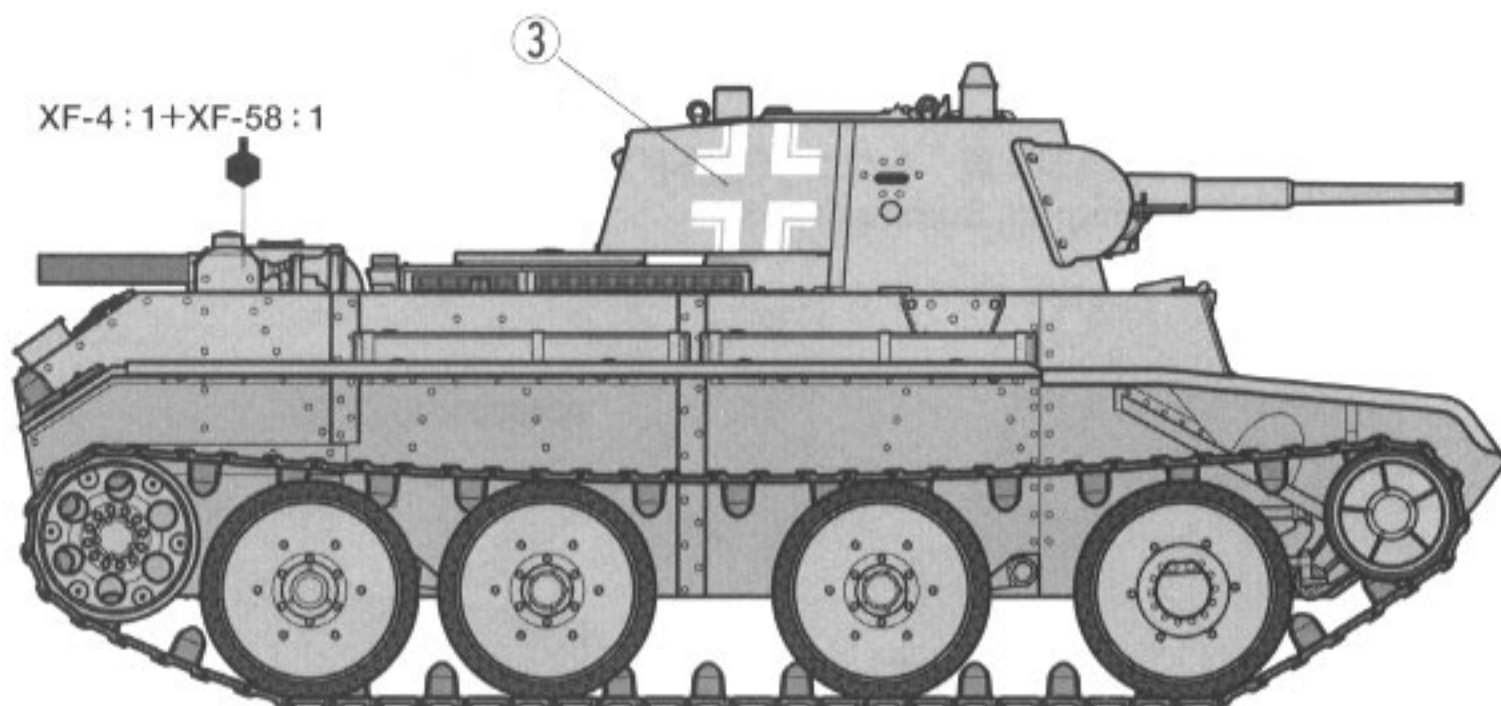
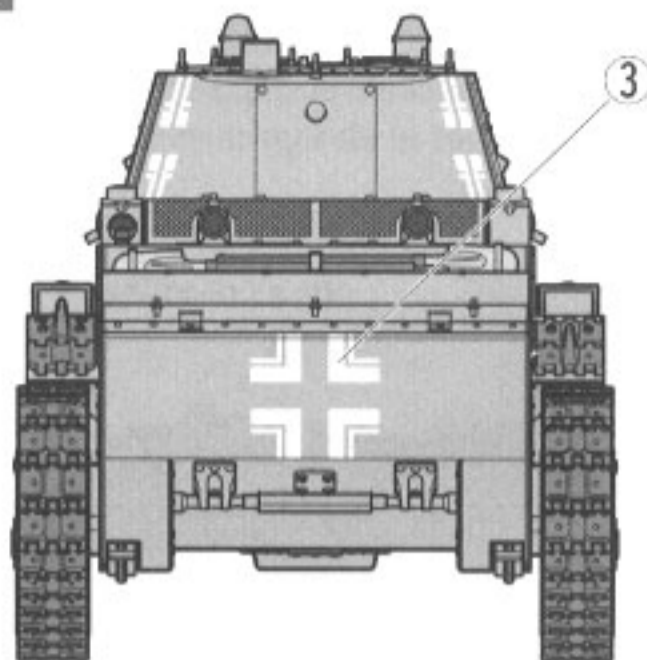
B 《第3機械化軍団》
3rd Mechanized Corps



C 《ドイツ軍仕様 (鹵獲車輛)》
German Army Captured Tank



C



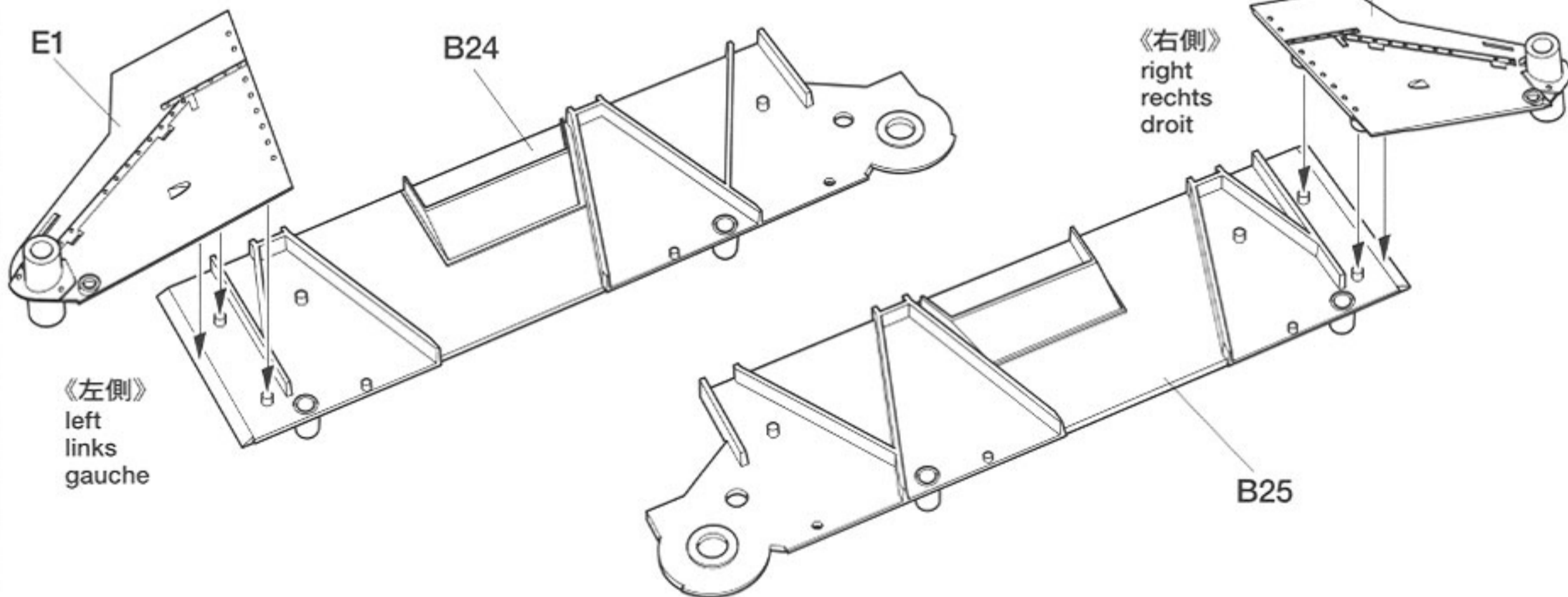
不要部品…………… A2x1, A3x2, A4x1, A8x1, A9x1, A11x1, A12x1, A13, A16, A23, A24, A25x1, A26x1, A27, A28x1, A29x1, A31x1, A32, A36, A39x1, A40x1, A42x1, A43x1, B19, B22, B23, B31, B33, ⑤, ⑥
 Not used.
 Nicht verwenden.
 Non utilisées.

ASSEMBLY



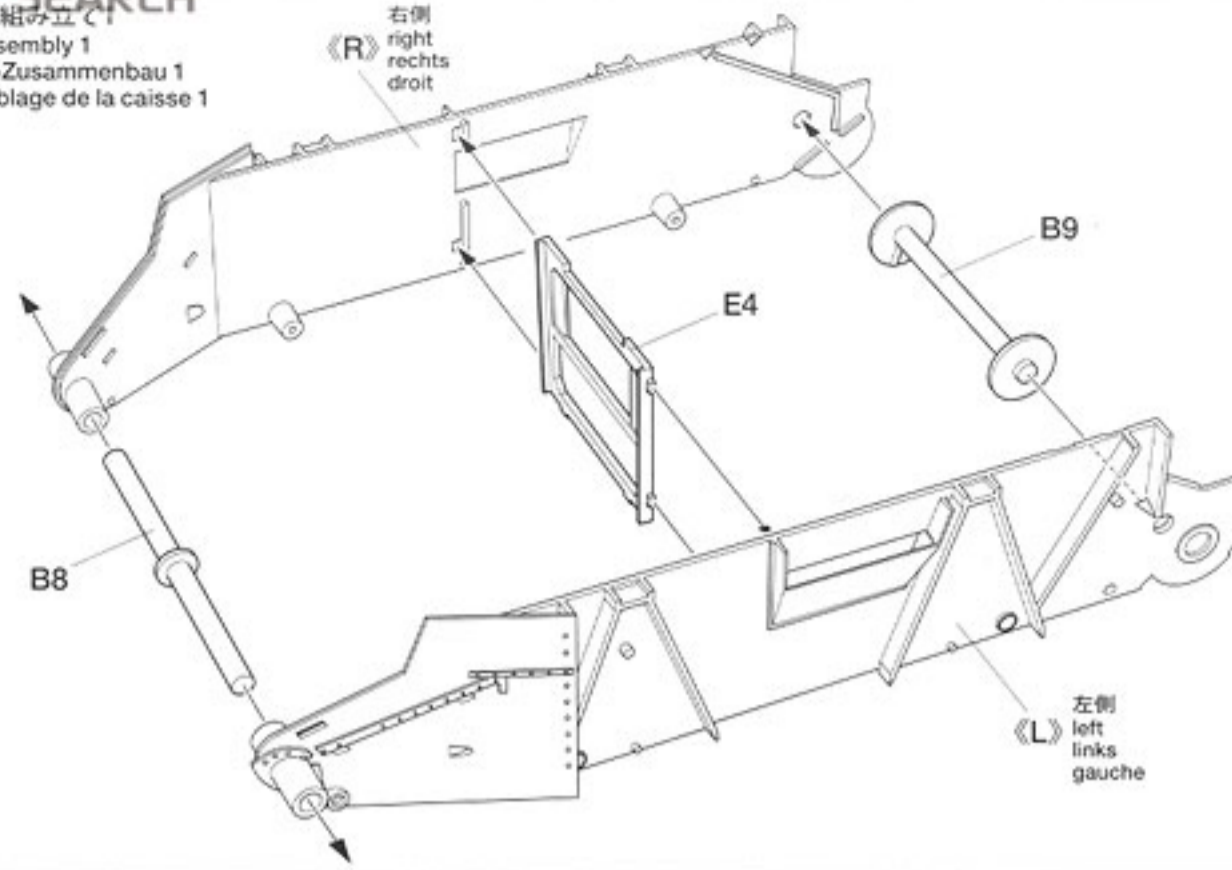
- 図中で塗装指示のない部品は車体色で塗装します。
- When no color is specified, paint the item with hull color (XF-4:1+XF-58:1).
- Wenn keine Farbe angegeben ist, Teile mit Wannen-Farbe bemalen (XF-4:1+XF-58:1).
- Lorsqu'aucune teinte n'est spécifiée, peindre dans la couleur de la caisse (XF-4:1+XF-58:1).

1 サイドパネルの組み立て
 Side panels
 Seitenpaneele
 Panneaux latéraux



2

単体の組み立て
Hull assembly 1
Rumpf-Zusammenbau 1
Assemblage de la caisse 1

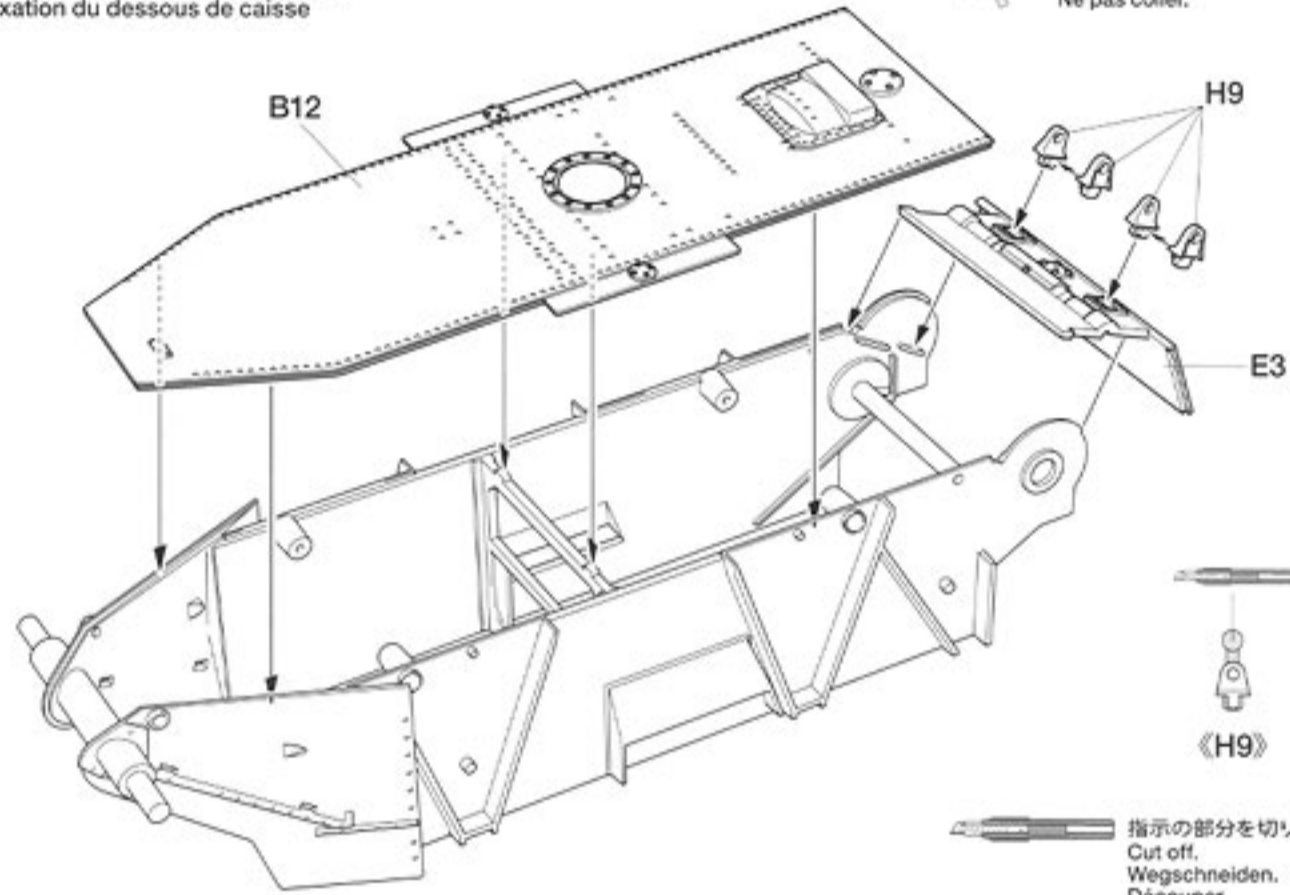


3

底面の取り付け
Attaching hull underside
Anbringen der Wannen-Unterseite
Fixation du dessous de caisse



このマークの部品は接着しません。
Do not cement.
Nicht kleben.
Ne pas coller.

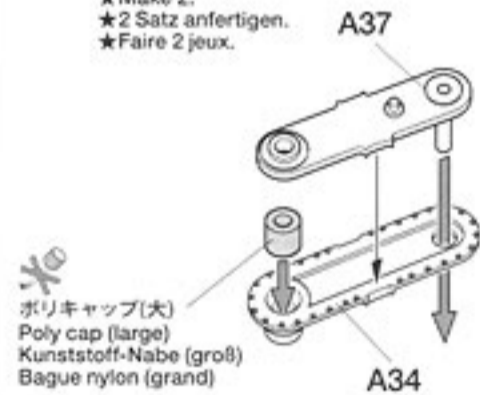


指示の部分を切り取ります。
Cut off.
Wegschneiden.
Découper.

4

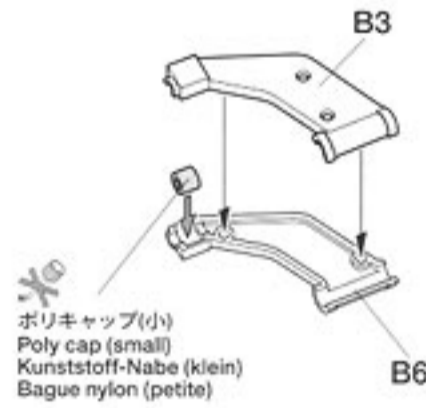
《リヤサスアーム》
Rear suspension arms
Hintere Radaufhängungs-Lenker
Bras de suspension arrière

★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



ポリキャップ(大)
Poly cap (large)
Kunststoff-Nabe (groß)
Bague nylon (grand)

《フロントサスアームR》
Front suspension arm (right)
Vorderer Radaufhängungs-Lenker (rechts)
Bras de suspension avant (droit)



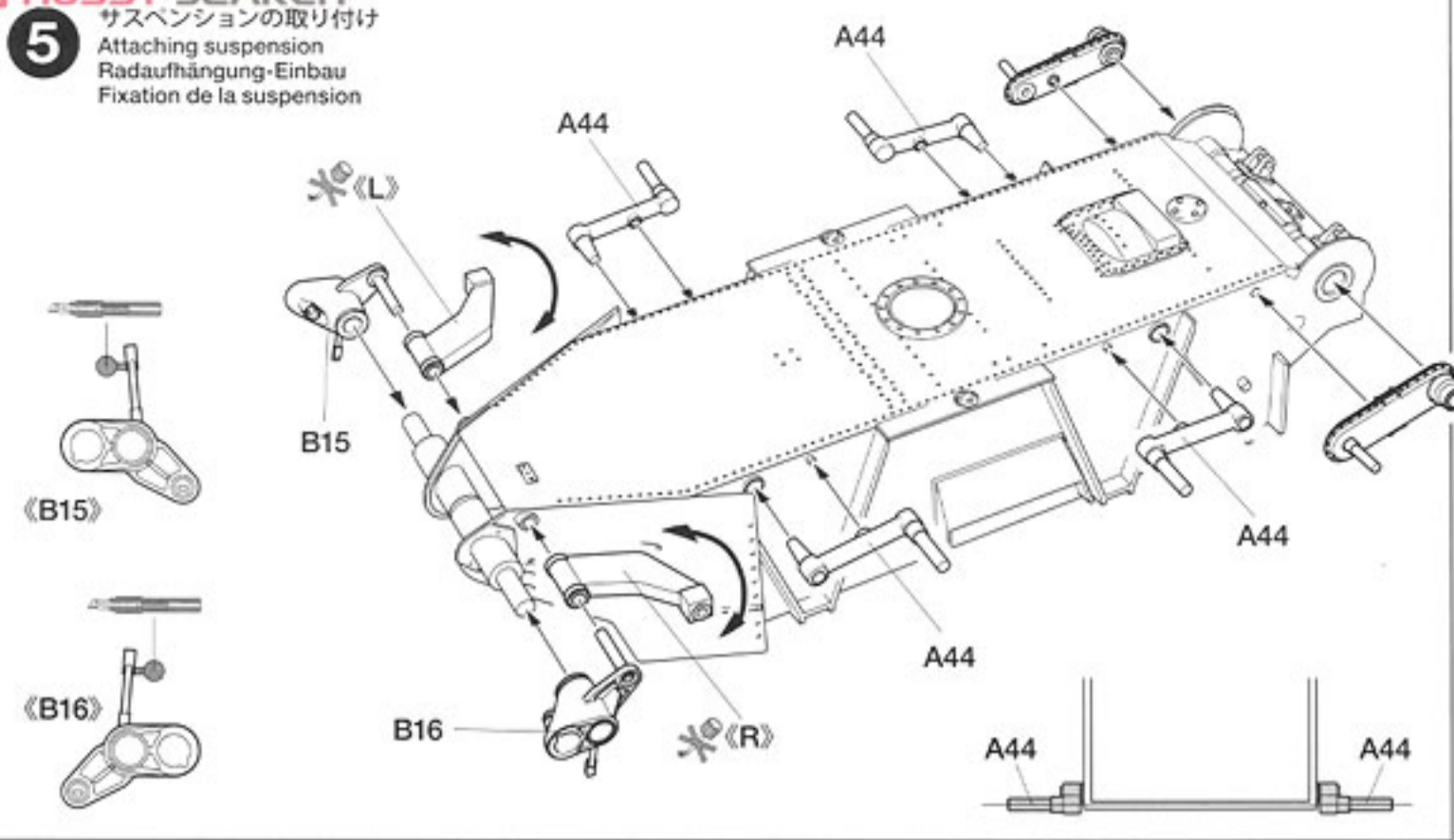
ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

《フロントサスアームL》
Front suspension arm (left)
Vorderer Radaufhängungs-Lenker (links)
Bras de suspension avant (gauche)

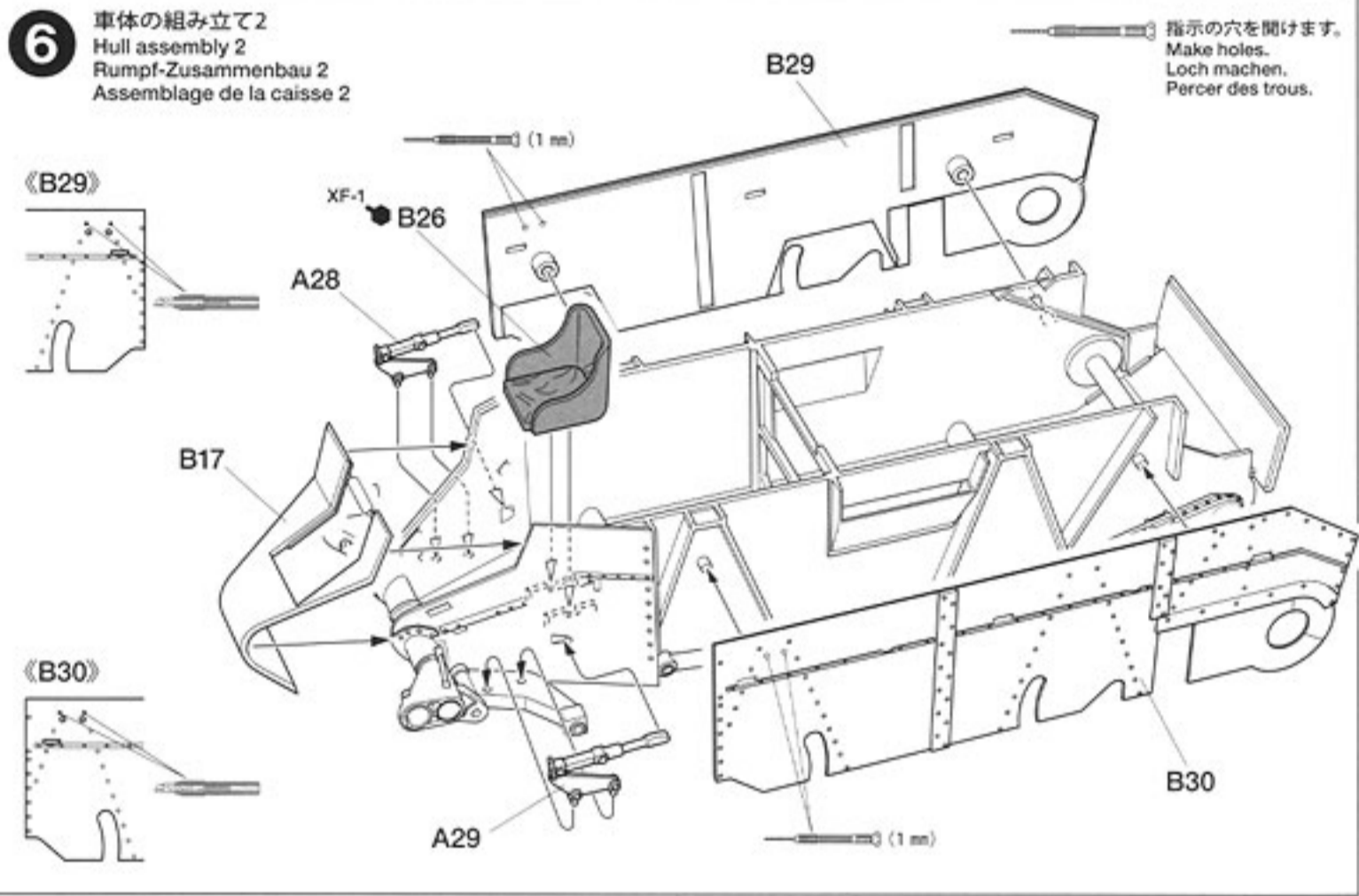


ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

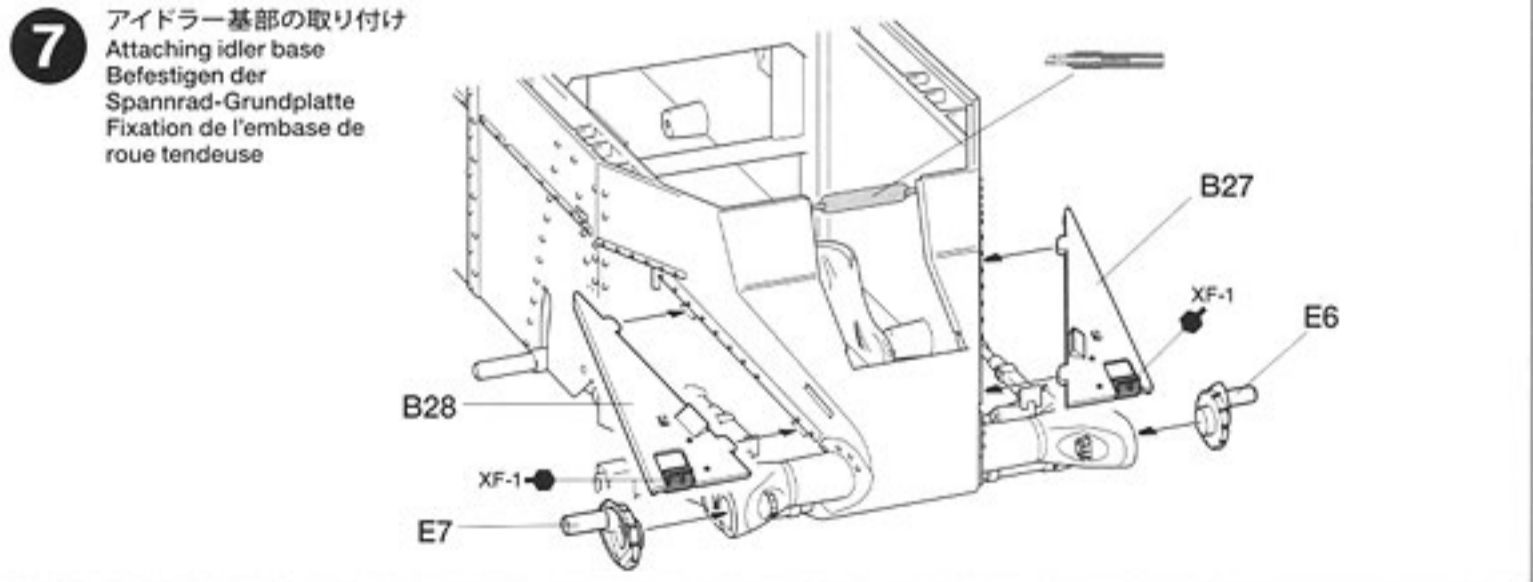
5 サスペンションの取り付け
Attaching suspension
Radaufhängung-Einbau
Fixation de la suspension



6 車体の組み立て2
Hull assembly 2
Rumpf-Zusammenbau 2
Assemblage de la caisse 2

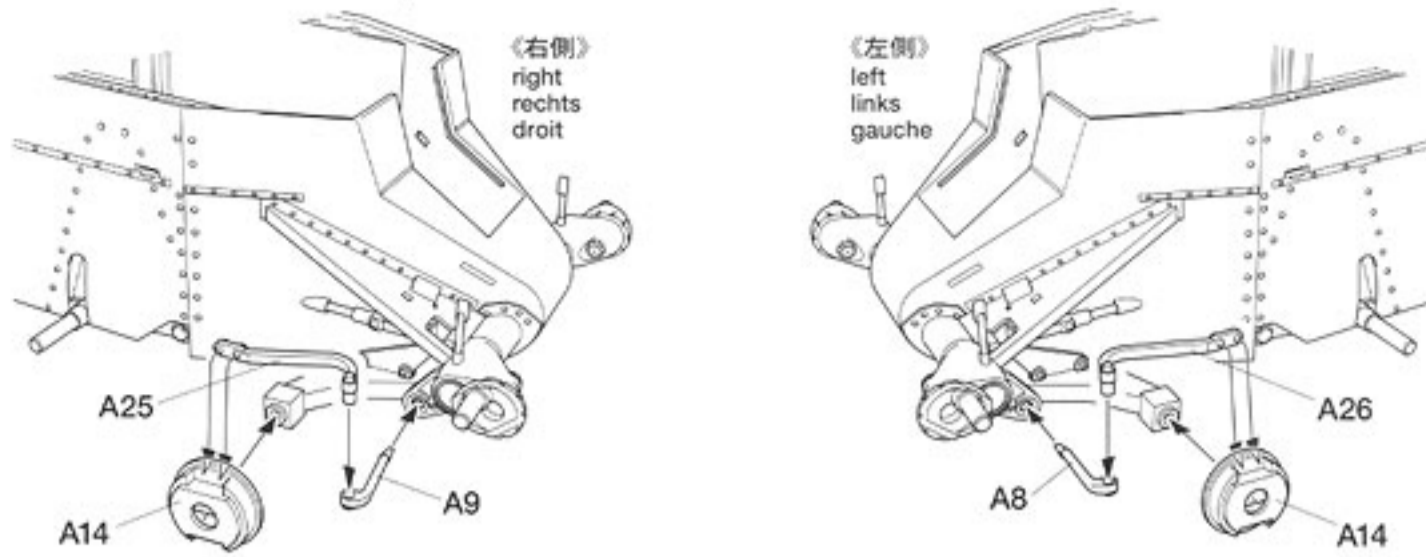


7 アイドラー基部の取り付け
Attaching idler base
Befestigen der Spannrad-Grundplatte
Fixation de l'embase de roue tendeuse



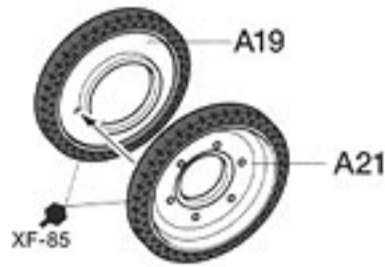
8

スミアリアンプロットの取り付け
 Attaching steering rods
 Lenkstangen-Einbau
 Installation des barres d'accouplement

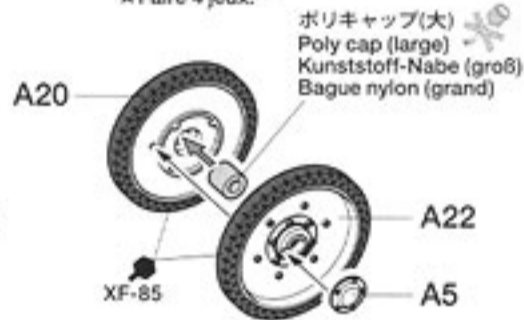


9

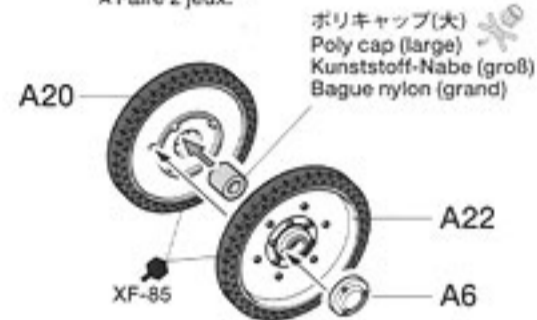
A 《第1転輪》
Road wheel No.1
Laufrad Nr.1
Roue de route N°1
★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



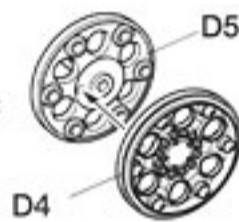
B 《第2、第3転輪》
Road wheel No.2, No.3
Laufrad Nr.2, Nr.3
Roue de route N°2, N°3
★4個作ります。
★Make 4.
★4 Satz anfertigen.
★Faire 4 jeux.



C 《第4転輪》
Road wheel No.4
Laufrad Nr.4
Roue de route N°4
★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



D 《起動輪》
Drive wheel
Antriebsrad
Roue d'entraînement
★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



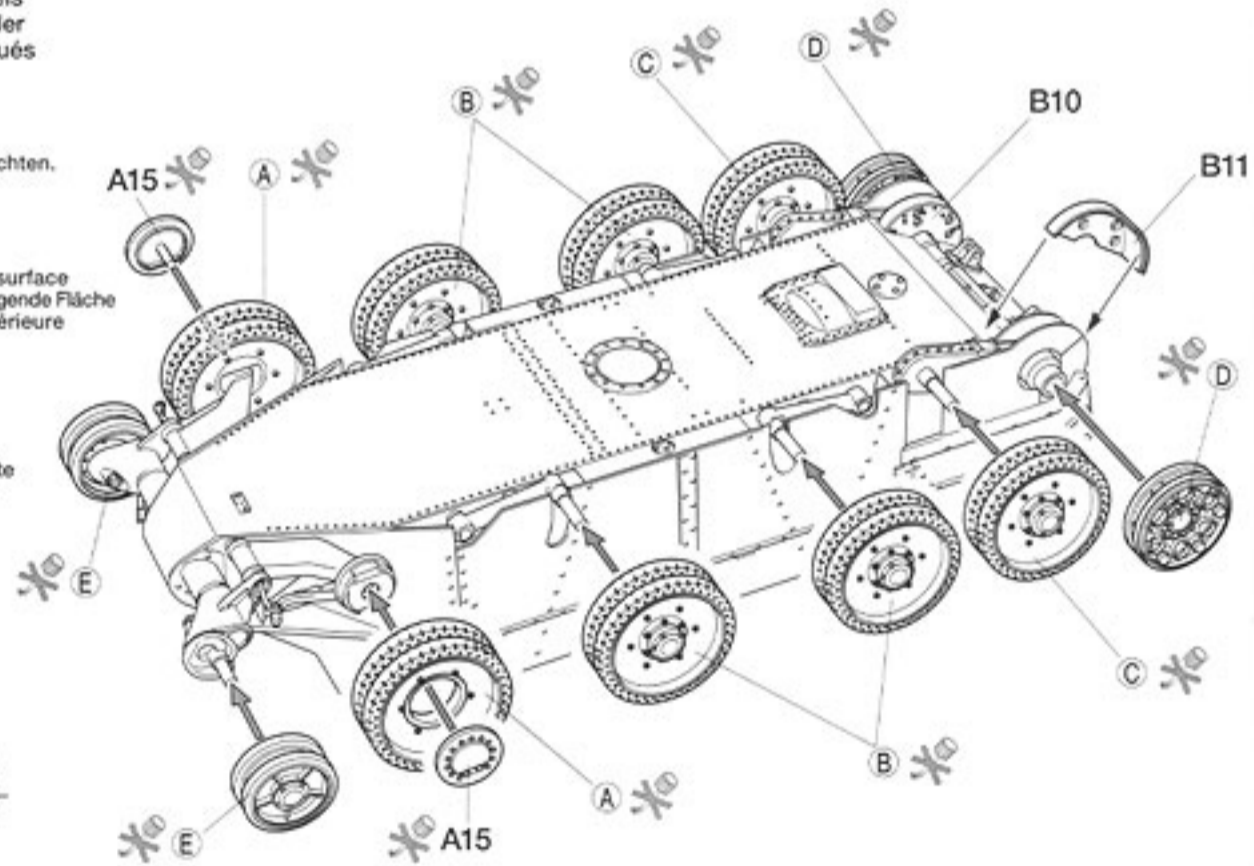
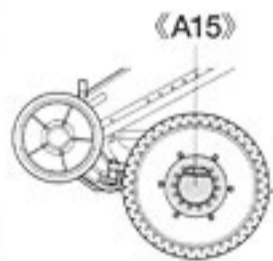
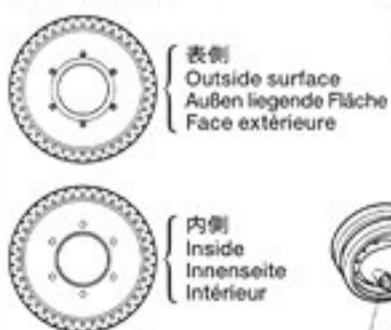
E 《誘導輪》
Idler wheel
Spannrad
Poulie-guide
★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



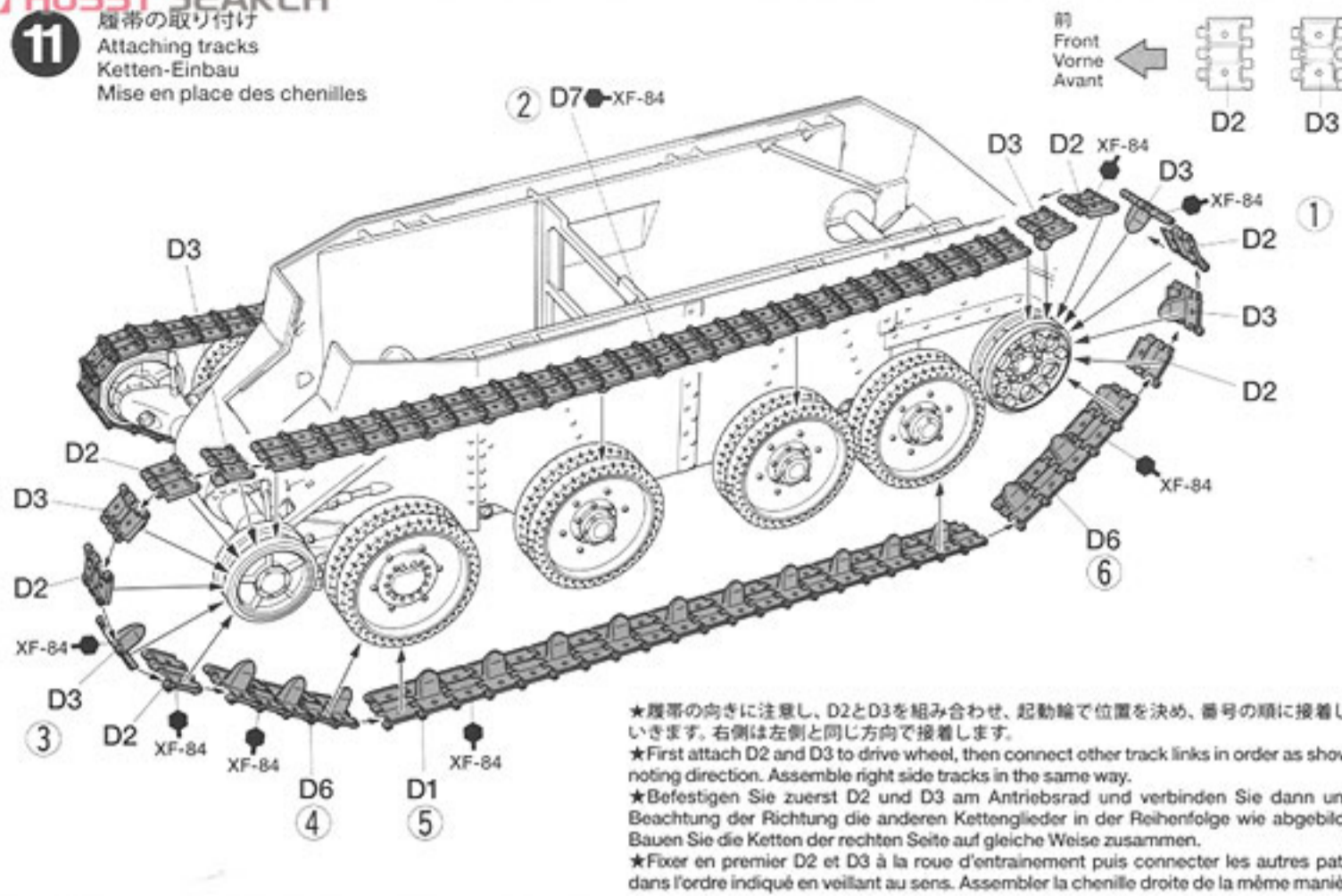
10

転輪の取り付け
 Attaching wheels
 Einbau der Räder
 Fixation des roués

★向きに注意。
 ★Note direction.
 ★Auf richtige Plazierung achten.
 ★Noter le sens.

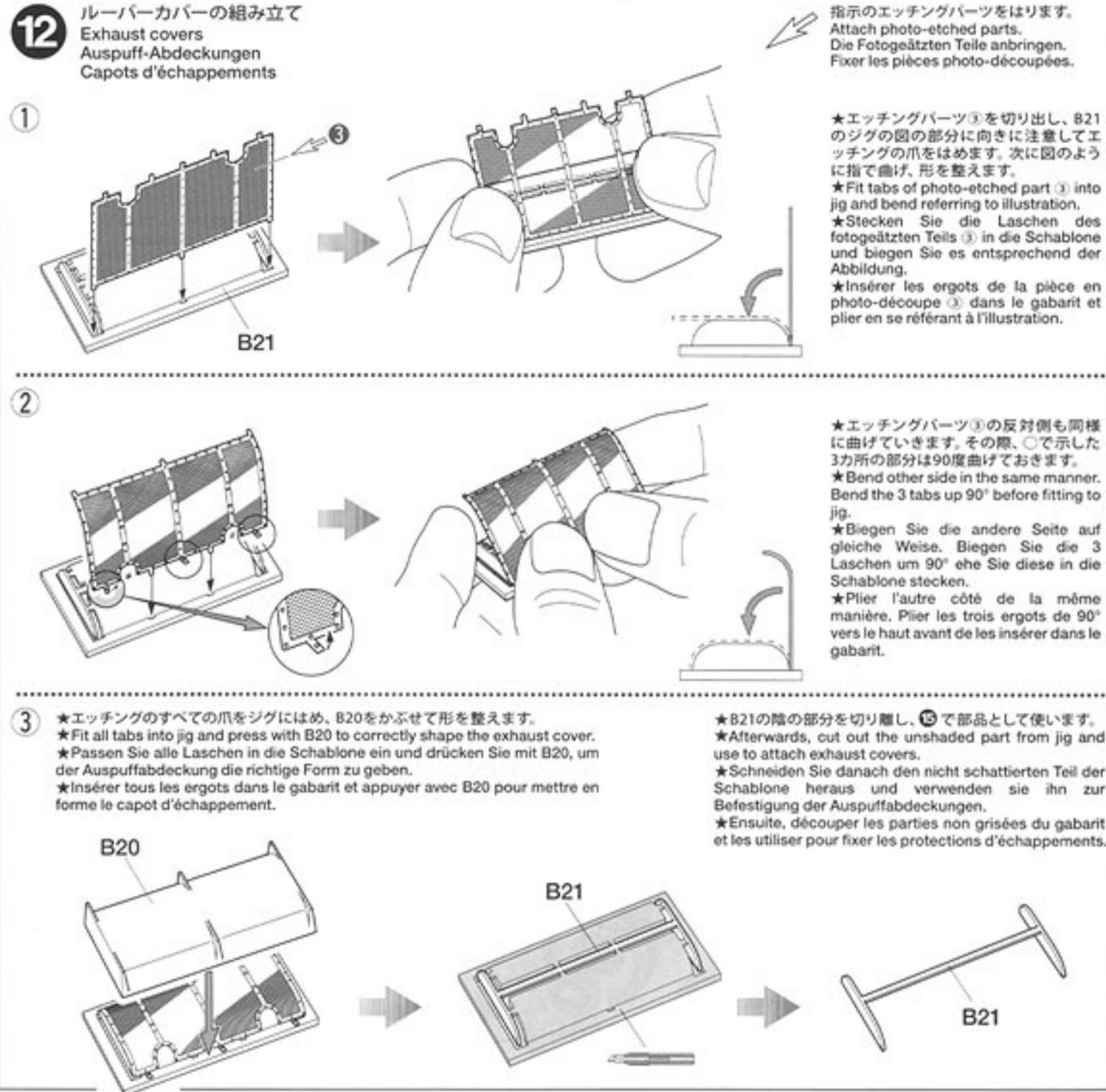


11 履帯の取り付け
Attaching tracks
Ketten-Einbau
Mise en place des chenilles



★履帯の向きに注意し、D2とD3を組み合わせ、起動輪で位置を決め、番号の順に接着していきま。右側は左側と同じ方向で接着します。
★First attach D2 and D3 to drive wheel, then connect other track links in order as shown, noting direction. Assemble right side tracks in the same way.
★Befestigen Sie zuerst D2 und D3 am Antriebsrad und verbinden Sie dann unter Beachtung der Richtung die anderen Kettenglieder in der Reihenfolge wie abgebildet. Bauen Sie die Ketten der rechten Seite auf gleiche Weise zusammen.
★Fixer en premier D2 et D3 à la roue d'entraînement puis connecter les autres patins dans l'ordre indiqué en veillant au sens. Assembler la chenille droite de la même manière.

12 ルーバーカバーの組み立て
Exhaust covers
Auspuff-Abdeckungen
Capots d'échappements



指示のエッチングパーツをはります。
Attach photo-etched parts.
Die Fotogezätzten Teile anbringen.
Fixer les pièces photo-découpées.

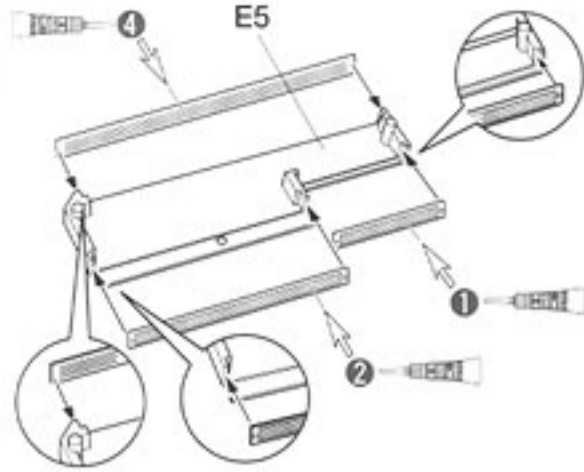
★エッチングパーツ③を切り出し、B21のジグの図の部分に向きに注意してエッチングの爪をはめます。次に図のように指で曲げ、形を整えます。
★Fit tabs of photo-etched part ③ into jig and bend referring to illustration.
★Stecken Sie die Laschen des fotogezätzten Teils ③ in die Schablone und biegen Sie es entsprechend der Abbildung.
★Insérer les ergots de la pièce en photo-découpe ③ dans le gabarit et plier en se référant à l'illustration.

★エッチングパーツ③の反対側も同様に曲げていきます。その際、○で示した3カ所の部分は90度曲げておきます。
★Bend other side in the same manner. Bend the 3 tabs up 90° before fitting to jig.
★Biegen Sie die andere Seite auf gleiche Weise. Biegen Sie die 3 Laschen um 90° ehe Sie diese in die Schablone stecken.
★Plier l'autre côté de la même manière. Plier les trois ergots de 90° vers le haut avant de les insérer dans le gabarit.

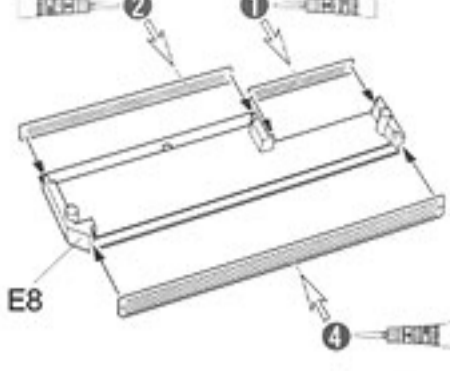
★エッチングのすべての爪をジグにはめ、B20をかぶせて形を整えます。
★Fit all tabs into jig and press with B20 to correctly shape the exhaust cover.
★Passen Sie alle Laschen in die Schablone ein und drücken Sie mit B20, um der Auspuffabdeckung die richtige Form zu geben.
★Insérer tous les ergots dans le gabarit et appuyer avec B20 pour mettre en forme le capot d'échappement.

★B21の陰の部分切り離し、⑤で部品として使います。
★Afterwards, cut out the unshaded part from jig and use to attach exhaust covers.
★Schneiden Sie danach den nicht schattierten Teil der Schablone heraus und verwenden sie ihn zur Befestigung der Auspuffabdeckungen.
★Ensuite, découper les parties non grisées du gabarit et les utiliser pour fixer les protections d'échappements.

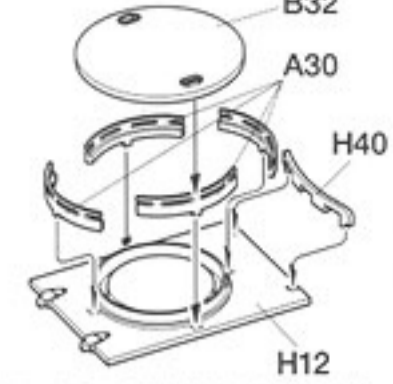
13 《ラジエター吸気口R》
Radiator intake (right)
Kühlereinlass (rechts)
Prise d'air de radiateur (droit)



《ラジエター吸気口L》
Radiator intake (left)
Kühlereinlass (links)
Prise d'air de radiateur (gauche)

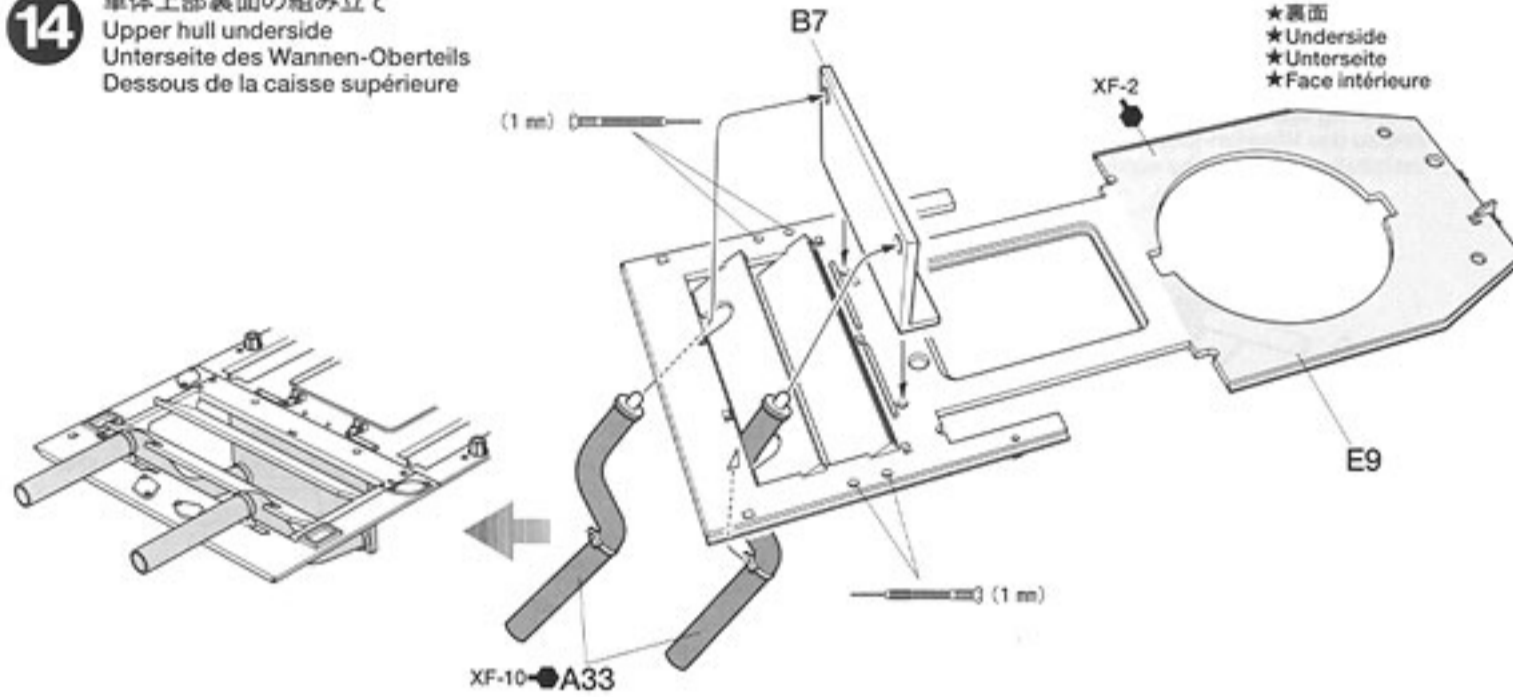


《エンジン点検口ハッチ》
Engine access hatch
Motor-Einstiegluke
Panneau d'accès moteur

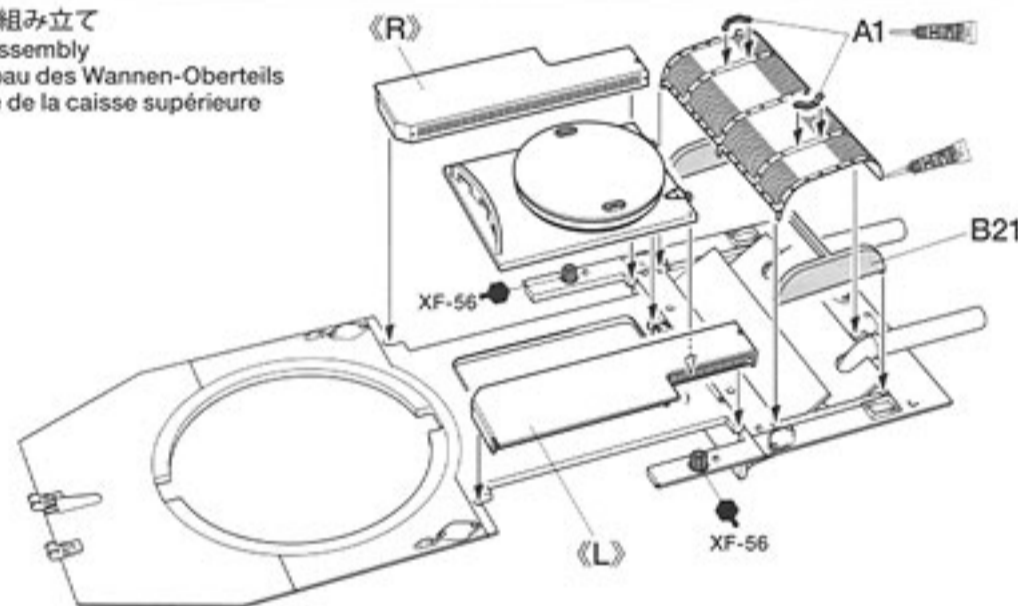


指示の部品を瞬間接着剤で取り付けます。
Apply instant cement.
Sekundenkleber auftragen.
Appliquer de la colle rapide.

14 車体上部裏面の組み立て
Upper hull underside
Unterseite des Wannen-Oberteils
Dessous de la caisse supérieure

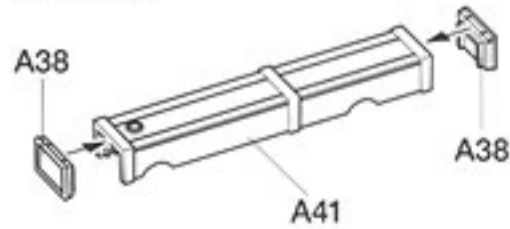


15 車体上部の組み立て
Upper hull assembly
Zusammenbau des Wannen-Oberteils
Assemblage de la caisse supérieure

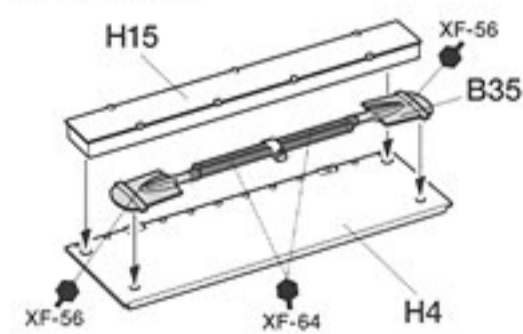


16 《外部燃料タンク》
External fuel tank
Außen liegender Kraftstofftank
Réservoirs externes

★4個作ります。
★Make 4.
★4 Satz anfertigen.
★Faire 4 jeux.

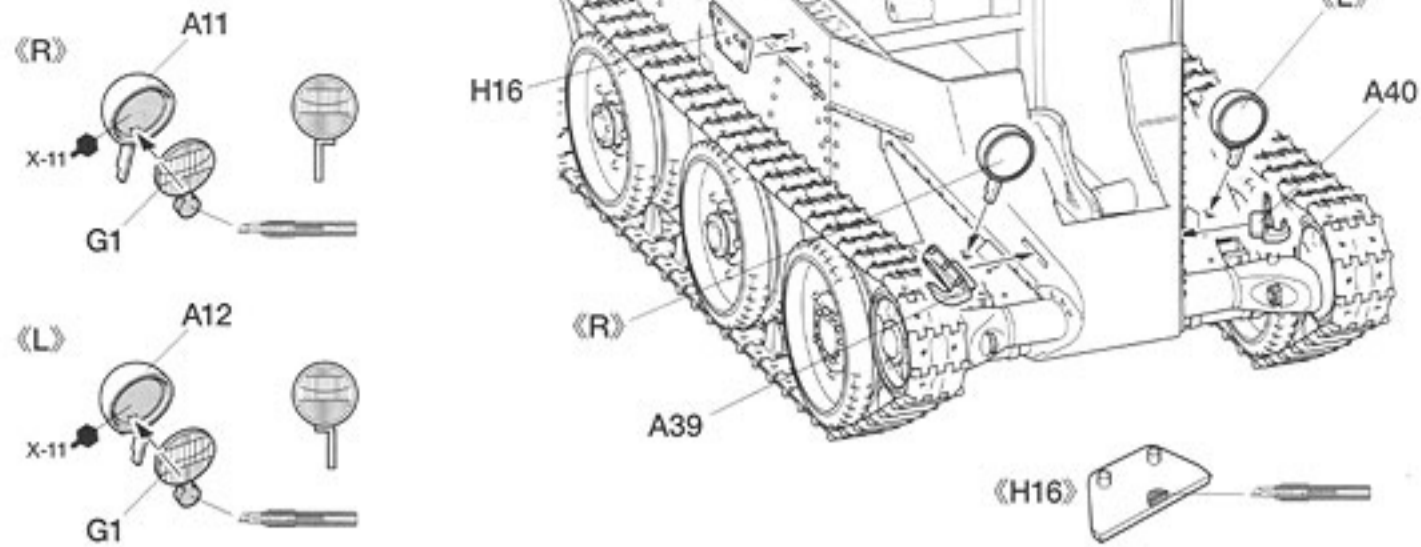


《リアパネル》
Rear panel
Heckplatte
Panneau arrière



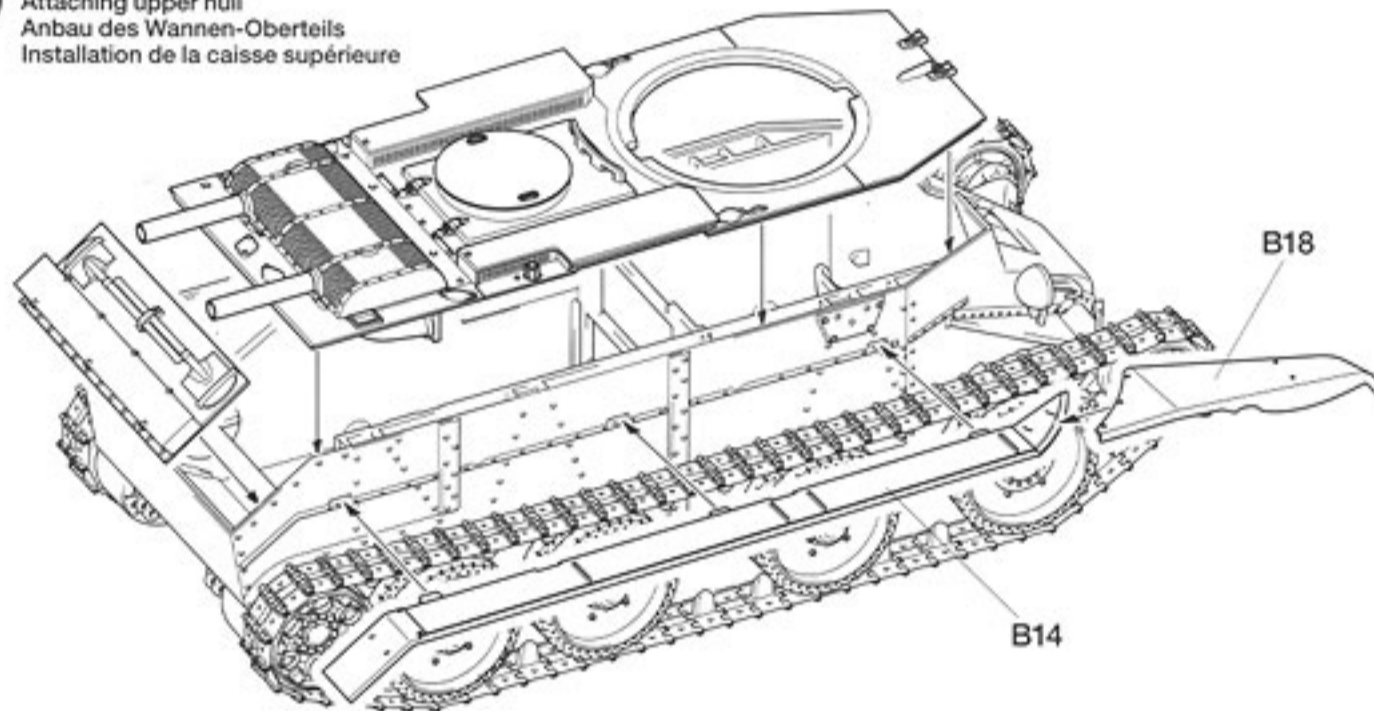
17

Attaching headlights
Scheinwerfer-Einbau
Fixation des phares



18

Attaching upper hull
Anbau des Wannens-Oberteils
Installation de la caisse supérieure

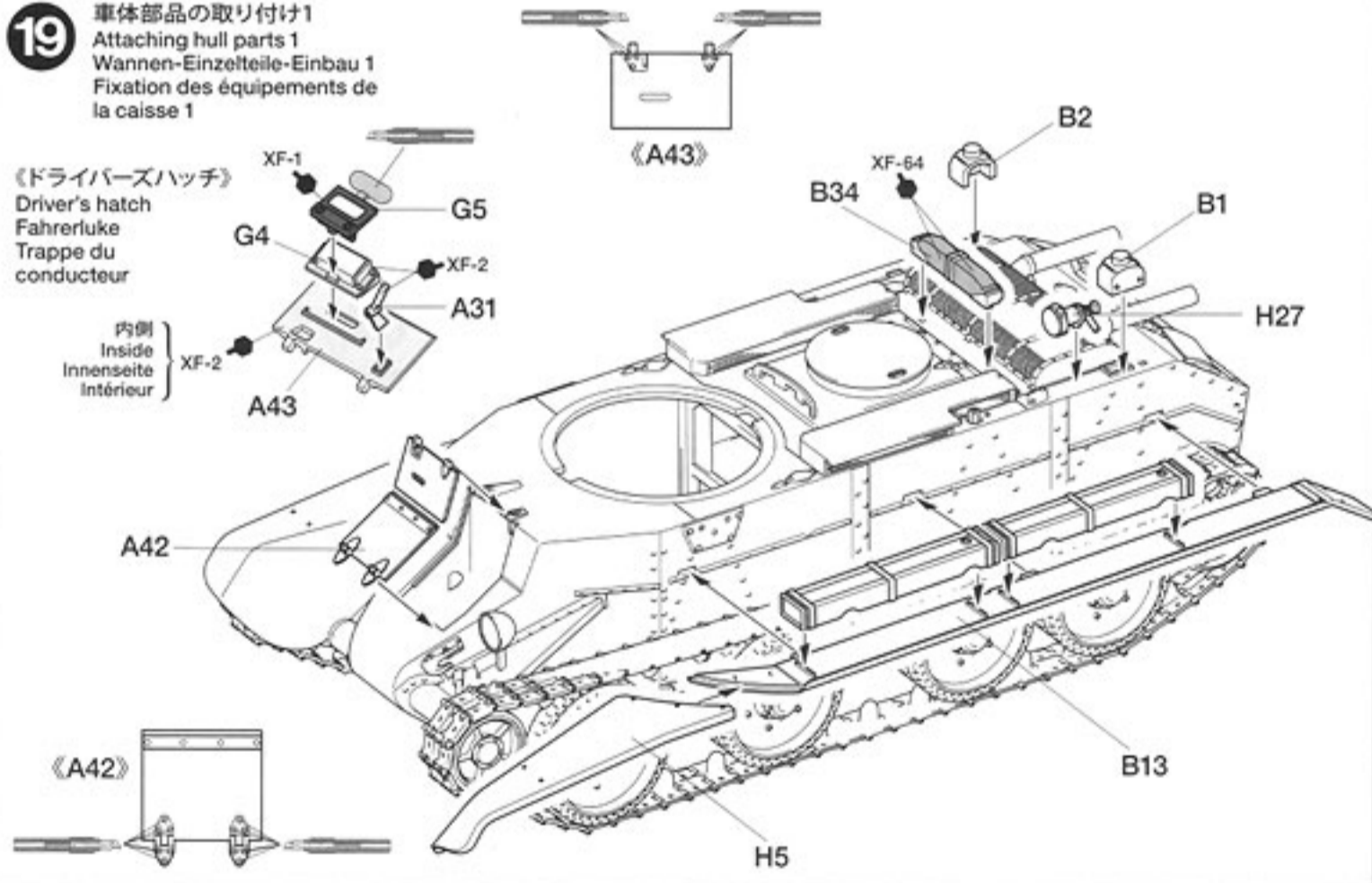


19

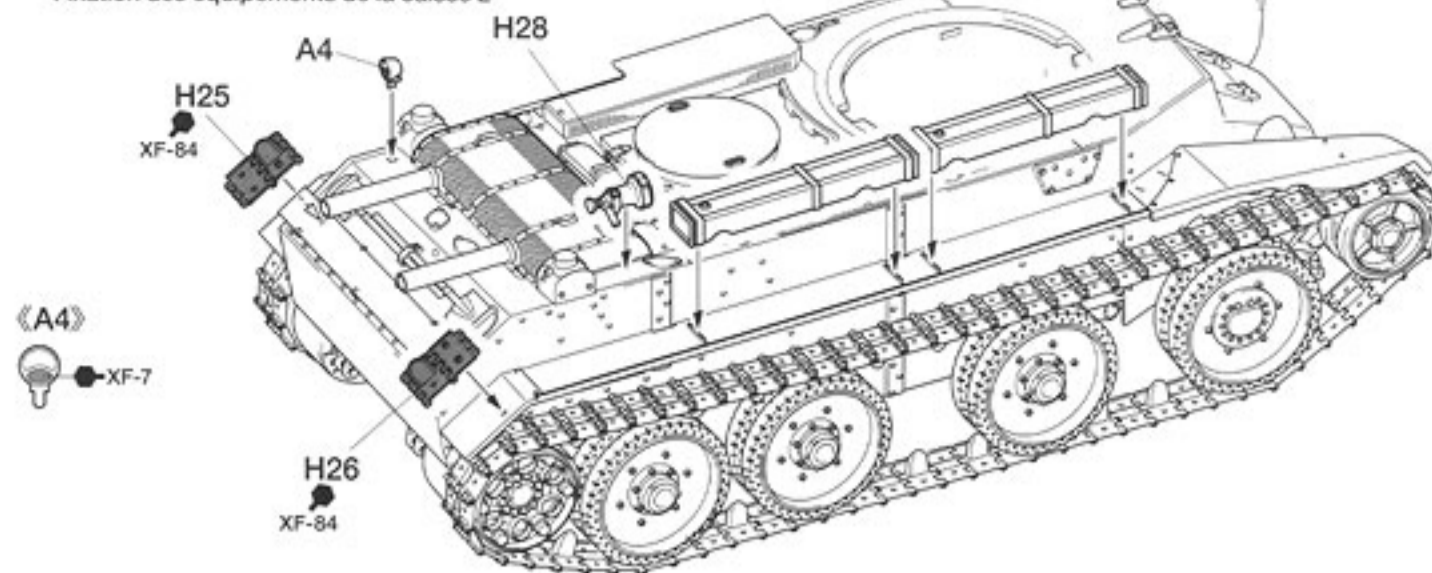
Attaching hull parts 1
Wannen-Einzelteile-Einbau 1
Fixation des équipements de la caisse 1

《ドライバースハッチ》
Driver's hatch
Fahrerluke
Trappe du conducteur

内側
Inside
Innenseite
Intérieur

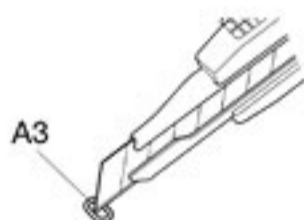


20 車体部品の取り付け2
Attaching hull parts 2
Wannen-Einzelteile-Einbau 2
Fixation des équipements de la caisse 2



21 チェーン取り付け
Attaching chain
Anbringung der Kette
Installation de la chaîne

0 85mm



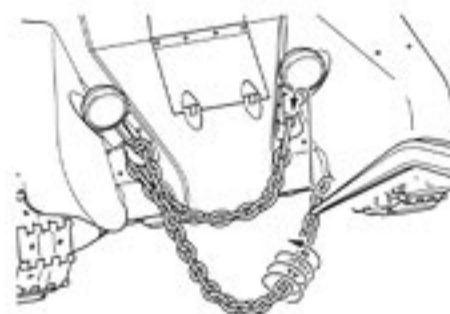
- ① ★A3を図のように切り込みを入れたものを2個作ります。
★Cut one side to open A3 as shown. Make 2.
★Eine Seite abschneiden um A3 wie abgebildet zu öffnen. 2 Satz anfertigen.
★Découper pour ouvrir A3 comme montré. Préparer deux pièces.



- ② ★チェーンを85mmの長さに切り出し、両端にA3を取り付け切断した部分を接着します。余ったチェーンはご自由にお使いください。
★Cut chain to 85mm. Close A3 with cement after attaching to chain ends. Use extra chain section as you wish.
★Kette auf 85mm zuschneiden. A3 nach Befestigen der Kettenenden mit Kleber verschließen. Den zusätzlichen Kettenabschnitt nach Belieben verwenden.
★Découper la chaîne à 85mm. Refermer A3 avec un point de colle après installation aux extrémités de la chaîne. Utiliser les sections de chaîne restantes à son gré.



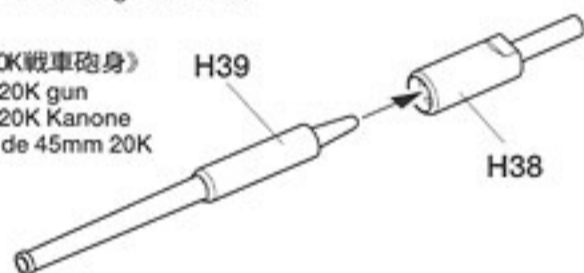
- ③ ★A3を前側の左側のフックに引っかけます。
★Attach one chain end to the left hook.
★Ein Kettenende am linken Haken befestigen.
★Fixer une extrémité de la chaîne au crochet gauche.



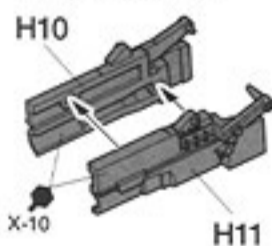
- ④ ★チェーンを右側にもかけて、ねじりながら長さを調節してください。次にA3をフックに引っかけます。
★Wrap chain around right hook, twist, then also attach other chain end to the left hook.
★Die Kette um den rechten Haken wickeln, verdrehen und dann das andere Kettenende ebenso am linken Haken anbringen.
★Enrouler la chaîne autour du crochet droit, vriller, puis fixer l'autre extrémité au crochet gauche.

22 砲の組み立て
Gun assembly
Zusammenbau der Kanone
Assemblage du canon

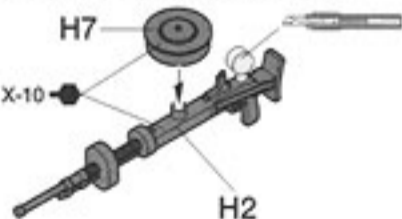
《45mm20K戦車砲身》
45mm 20K gun
45mm 20K Kanone
Canon de 45mm 20K



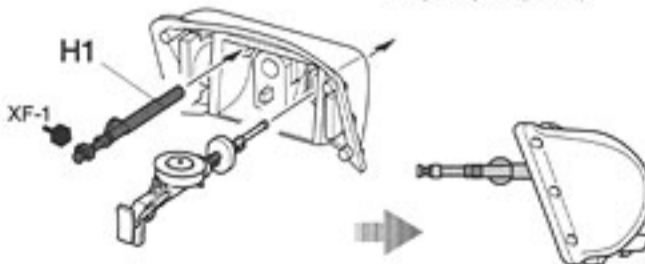
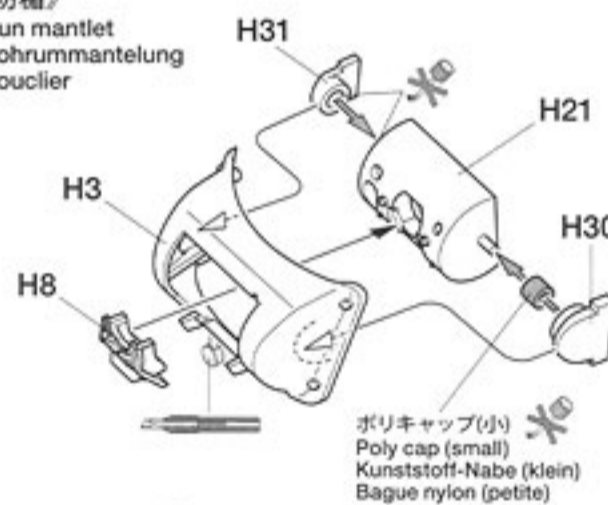
《砲尾》
Gun breech
Kanonenverschluss
Culasse du canon



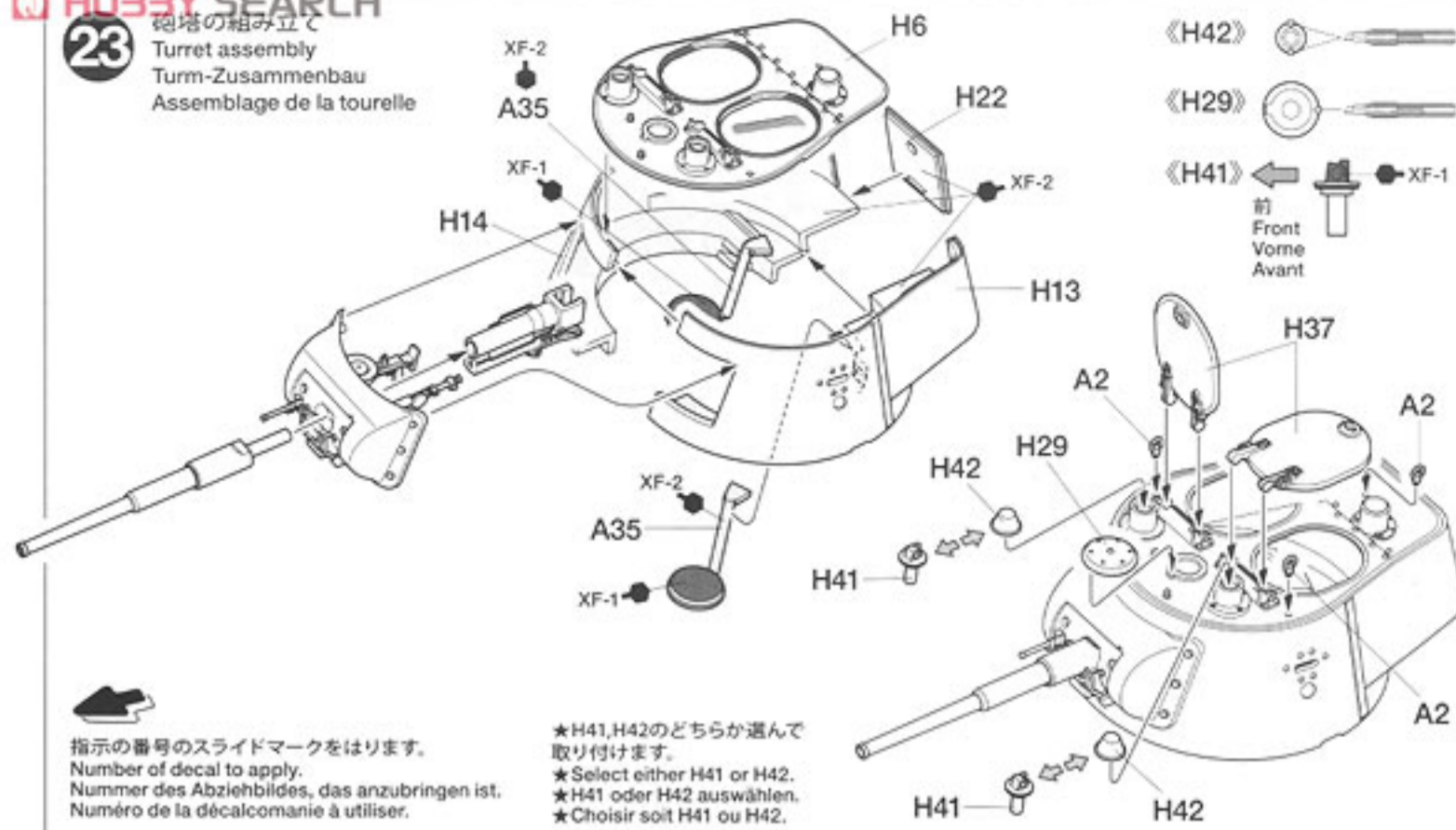
《7.62mm DT同軸機銃》
7.62mm DT coaxial machine gun
7.62mm DT Koaxiales Maschinengewehr
Mitrailleuse co-axiale 7.62mm DT



《防楯》
Gun mantlet
Rohrummantelung
Bouclier



23 砲塔の組み立て
Turret assembly
Turm-Zusammenbau
Assemblage de la tourelle



指示の番号のスライドマークをはります。
Number of decal to apply.
Nummer des Abziehbildes, das anzubringen ist.
Numéro de la décalcomanie à utiliser.

★H41,H42のどちらかを選んで
取り付けます。
★Select either H41 or H42.
★H41 oder H42 auswählen.
★Choisir soit H41 ou H42.

24 人形の組み立て
Figures
Figuren
Figurines

★G2, G3 は取り付け自由です。
★G2, G3 is optional.
★G2, G3 nach Ermessen.
★G2, G3 est optionnel.

大尉 Captain Hauptmann Capitaine	5	8	9
中尉 First Lieutenant Oberleutnant Lieutenant	6	10	11
少尉 Second Lieutenant Unterleutnant Sous-Lieutenant	7	12	13

《将校》
Officer
Offizier
Officier



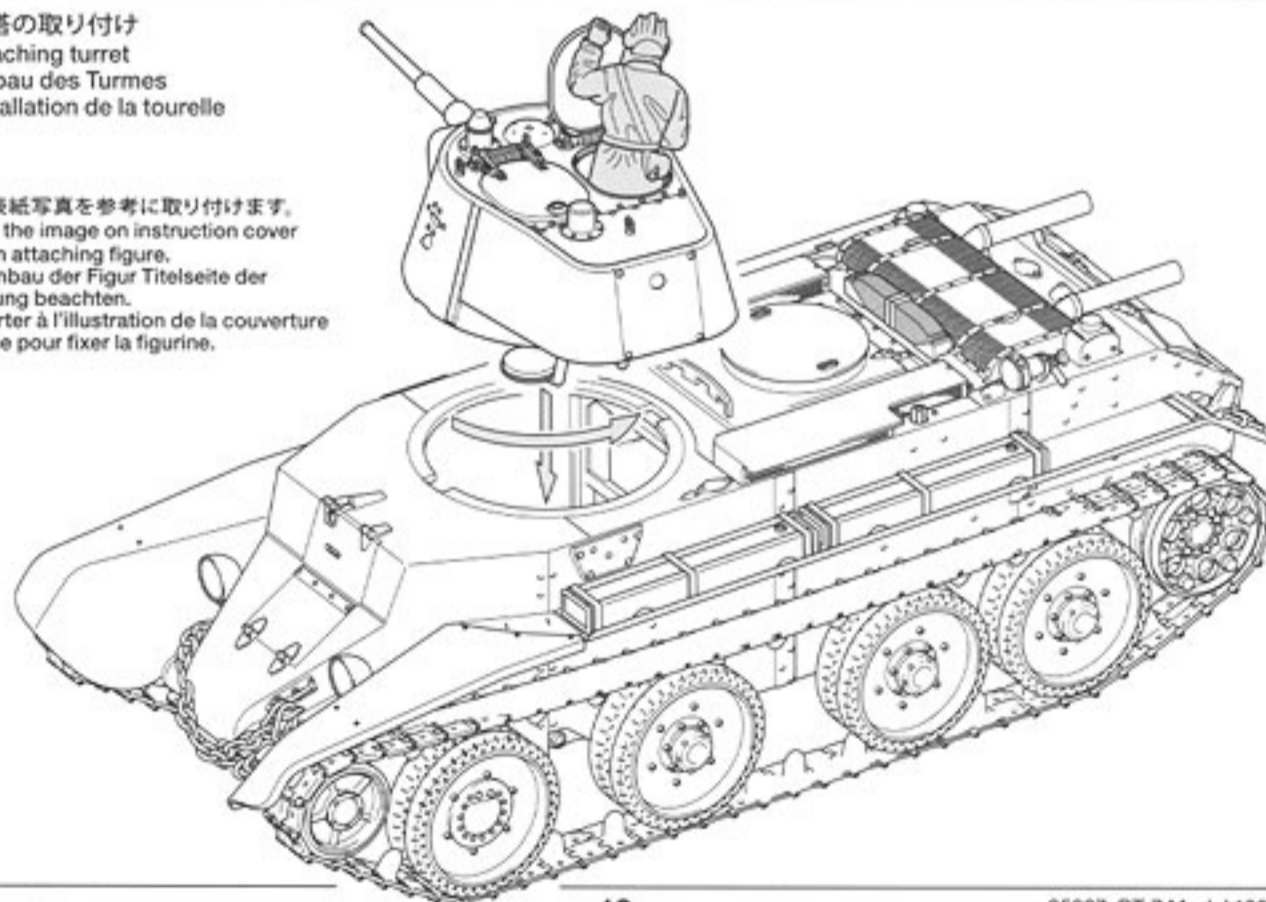
イラスト: 上田 信

《コマンダー》
Commander
Kommandant
Chef de char



25 砲塔の取り付け
Attaching turret
Einbau des Turmes
Installation de la tourelle

★人形は表紙写真を参考に
取り付けます。
★Refer to the image on instruction
cover page when attaching figure.
★Beim Einbau der Figur Titelseite der
Bauanleitung beachten.
★Se reporter à l'illustration de la couverture
de la notice pour fixer la figurine.

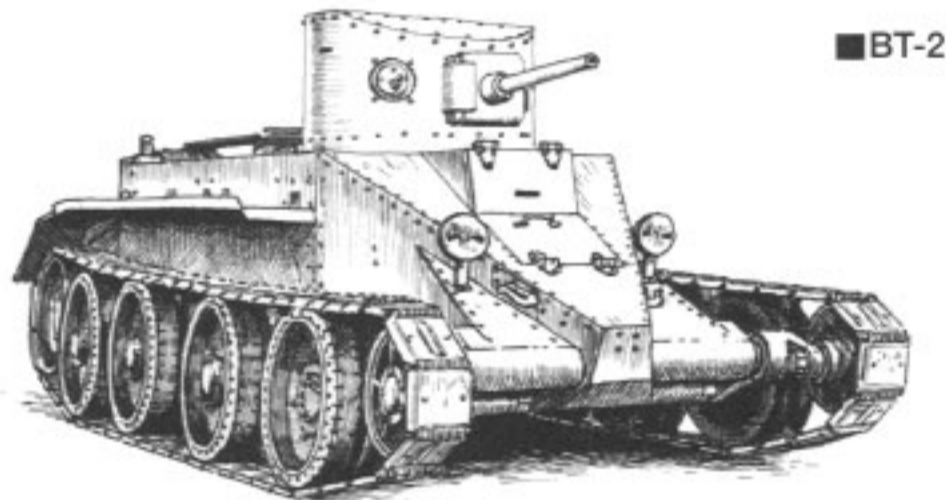


Development of BT Tanks

During the late-1920s, Russia's Revolutionary Military Council advocated mechanization and sought to purchase foreign tanks and their license manufacturing rights while secretly cooperating with Germany to develop domestic designs. An inquiry commission, led by Innokenti Khalepski, bought Carden Loyd tankettes and Vickers 6-Ton tanks from Britain before turning to the U.S., where inventor Walter Christie presented a design which featured his high-mobility "Christie Suspension." The tank was suited to the Russian "Deep Battle" doctrine, and following the purchase of a prototype as well as the manufacturing rights, the BT-2 and BT-5 fast tanks were developed in the early-1930s. The final evolution of this series of tanks was the BT-7, which featured a more reliable M-17 engine and greater range. It was also to be equipped with a 76.2mm gun, but shortages of this weapon meant production proceeded with the same turret and 45mm gun as the earlier BT-5. 1,544 of these BT-7 Model 1935s were built between 1935 and 1936.

Lessons From The Spanish Civil War

In 1936, civil war broke out between Spain's left-wing Republicans and the right-wing Nationalists commanded by General Francisco Franco. Germany and Italy provided full military support to the latter while Russia provided similar support to the former. The T-26 tanks which Russia provided from October



1936 proved superior to the German Panzer I and Panzer II tanks, but its thin armor was vulnerable to 75mm and 37mm anti-tank guns. The same was true for the BT-5s which were deployed to the conflict in 1937. Russia thus began development of new tanks with thicker armor while improving the protection of its existing tanks. Since increasing armor thickness would add weight, Russian designers created a new turret with sloped armor as a solution. Although the previous turret was somewhat sloped due to its cylindrical shape, the new conical turret featured 15° sloped sides. Designated BT-7 Model 1937 and production of this variant began in the summer of that year. Just as it was introduced,

Marshal Mikhail Tukhachevsky's armored corps was disbanded and tank brigades became the largest permitted armor units. As such, the new tanks were incorporated into these brigades alongside earlier BT-7s.

BT-7 Model 1937 In Combat

The Model 1937 first saw combat during the Battles of Khalkhyn Gol (Nomonhan Incident) in August 1939. Marshal Georgy Zhukov conducted a large-scale offensive to destroy the Japanese Army and BT-7s were deployed with the 6th and 11th Armored Brigades. The latter unit included many Model 1937s which had been sent straight from the factory at Kharkov as attrition replacements.

Model 1937s were then deployed during the invasion of Poland in September 1939, and the 24th Armored Brigade which captured Lviv in particular was confirmed to have fielded these tanks.

The Russian invasion of Finland, or the Winter War, from 1939 to 1940 was the next conflict which involved Model 1937s. The 13th, 20th, and later, the 1st Armored Brigades used these tanks in action in the Karelian region. Here, another weakness was discovered as the flat plates of the BT-7's tracks meant tanks were immobilized by winter conditions.

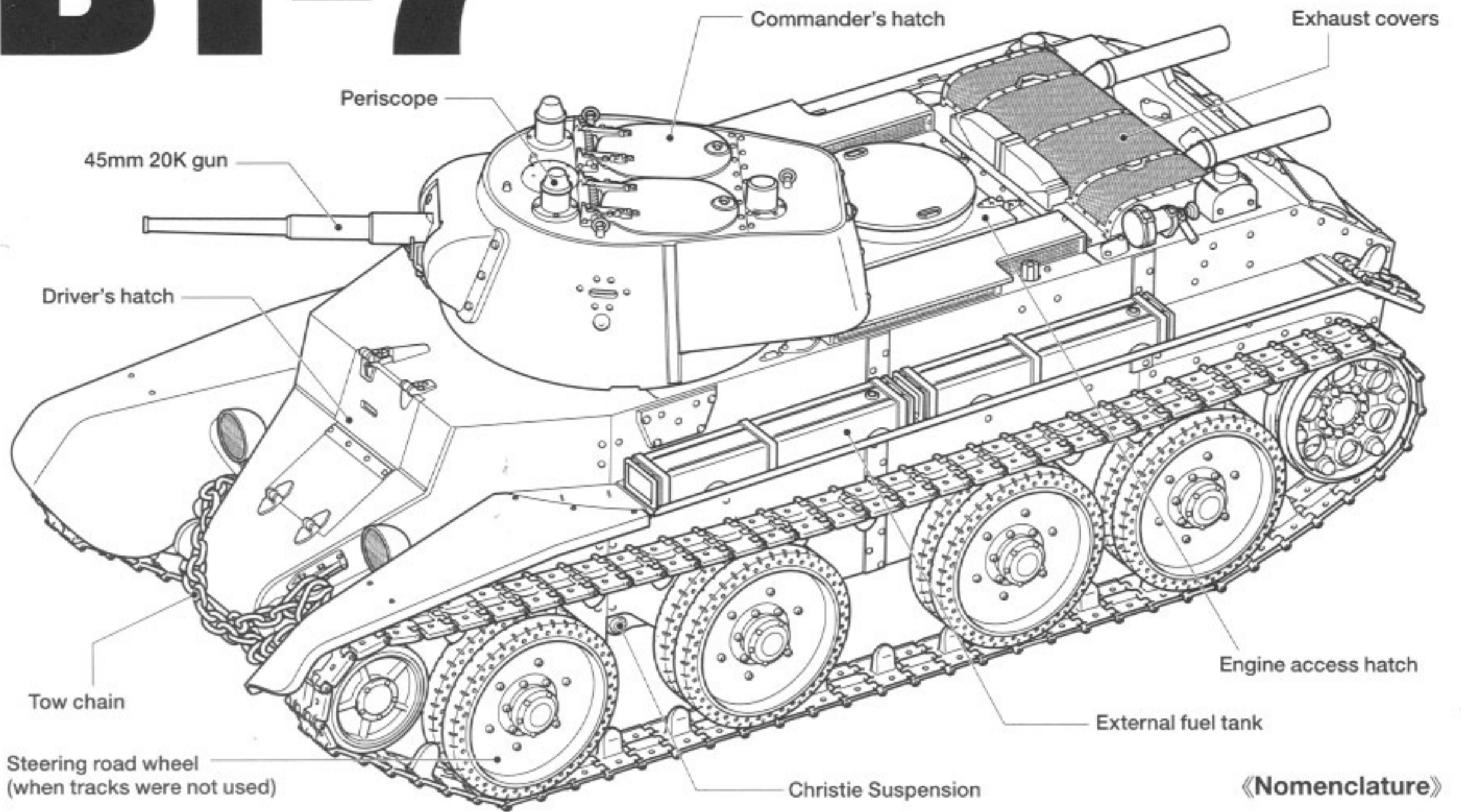
In the summer of 1940, the Russian Army began to re-establish the mechanized corps. Although the BT-7 was becoming obsolete, the shortage of T-34 and KV tanks meant many were still in frontline use. At the start of hostilities on the Eastern Front, 2,801 BT-7 tanks of various types were in service in the military districts along the western border. When the German invasion began on June 22, 1941, the Russian tank units were completely unprepared. Despite the dire situation, several units equipped with Model 1937s fought back, including the defensive actions of the 5th and the 24th Armored Divisions at the Neman River in Lithuania and Pskov respectively. Colonel Mikhail Katukov's 4th Armored Brigade, which consisted of Model 1937s as well as T-34s and KV tanks, notably thwarted German General Heinz Guderian's advance on Moscow at Mtsensk in the autumn of 1941. The Model 1937's final combat actions were in the Far East, where these "Betushkas" led the advance through the Stanovoy Range into Manchuria in August 1945.

Specifications

- Length : 5,660mm ●Width : 2,230mm ●Height : 2,420mm
- Fully-Loaded Weight : 13.9 tons ●Crew : 3
- Engine : M-17T V12 liquid-cooled gasoline engine
- Maximum Output : 400hp
- Maximum Speed : 73km/h (w/wheels), 53km/h (w/tracks)
- Range : 500km (w/wheels), 375km (w/tracks)
- Armament : 45mm 20K Model 1934 gun x1 (188 rounds),
7.62mm DT machine gun x2 (2,394 rounds)

RUSSIAN TANK BT-7

MODEL 1937



Die Entwicklung der BT Panzer

Im Verlaufe der späten 20er Jahre plante Russland die Mechanisierung der Streitkräfte und versuchte ausländische Panzer und deren Nachbaurechte zu erwerben. Gleichzeitig arbeitete man mit Deutschland an einer eigenen Konstruktion. Eine Prüfungskommission, geführt von Innokenti Khalepski kaufte Carden Loyd Tanketten und 6 Tonnen Vickers Panzer aus Großbritannien, bevor sie sich in die Vereinigten Staaten bewegten, wo der Erfinder Walter Christie eine neue Radaufhängung vorstellte. Dieser Panzer erschien geeignet für die russische Kampfstrategie und nach dem Ankauf eines Prototyps und der Fertigungsrechte wurden in den frühen 30er Jahren die schnellen BT-2 und BT-5 Panzer entwickelt. Die letzte Entwicklungsstufe dieser Serie war der BT-7 der einen etwas zuverlässigeren M-17 Motor hatte und einen größeren Fahrbereich besaß. Er sollte eigentlich mit der 76,2 mm Kanone ausgerüstet werden, aber auf Grund von Engpässen wurde er mit dem alten Turm und der 45 mm Kanone ausgestattet wie die früheren BT-5. 1544 dieser BT-7 Modell 35 wurden zwischen 1935 und 1936 gebaut.

Spanischer Bürgerkrieg

Im Jahr 1936 brach ein Krieg aus zwischen den Republikanern und den Nationalisten geführt durch General Francisco Franco. Deutschland und Italien gewährten ihm volle militärische Unterstützung, während Russland ähnlichen Support für die Linken darstellte. Die T-26 Panzer welche Russland ab Oktober 1936 beistellte erwiesen sich den deutschen Panzern I und II überlegen aber ihre dünne Panzerung war verwundbar durch 75mm und 37mm Panzerabwehrkanonen. Dasselbe traf zu für die BT-5 welche 1937 in den Konflikt entsendet wurden. Russland begann daraufhin die Entwicklung neuer Panzer und verbesserte die existierenden Fahrzeuge. Da der Aufwuchs an Panzerung mehr Gewicht bedeutete entwickelten die russischen Ingenieure einen neuen Turm mit angeschrägter Panzerung. Obwohl der vorherige Turm wegen seiner zylindrischen Form auch schon angeschrägt war hatte der neue konische Turm Seitenflächen mit 15° Schräge. Das Modell wurde BT-7 1937 genannt und die Produktion begann im Sommer des gleichen Jahres. Gerade als er eingeführt wurde wurden die Armeecorps geführt von Marschall Mikail Tukhachevsky aufgelöst und die Panzerbrigaden wurden die größten gepanzerten Einheiten. Daher wurden die neuen Panzer in diese Brigaden neben den älteren BT-7 eingegliedert.

Der BT-7 Modell 1937 im Kampf

Das Modell 1937 wurde zunächst eingesetzt bei der Schlacht von Khalkhyngol (Nomonhan Ereignis) im August 1939. Marschall Georgy Zhukov führte eine breite Offensive gegen die japanische Armee und die BT-7 wurden mit der 6. und der 11. gepanzerten Brigade eingesetzt. Diese Einheit hatte viele Panzer des Modells 1937, die direkt aus der Fabrik in Kharkov kamen.

Die Modelle 1937 wurden dann im September 1939 in Polen eingesetzt und die 24. gepanzerte Brigade, welche Lviv eroberte, hatte nachgewiesenermaßen diese Panzer eingesetzt. Die russische Invasion von Finnland, oder der Winterkrieg, von 1939-1940 war der nächste Konflikt in dem das Modell 1937 eingesetzt wurde. Die 13., 20., und später die 1. Panzerbrigade setzte diese Panzer in Karelien ein, wobei die flachen Kettenglieder der PT-7 Ketten die Panzer im Winter unbeweglich machten. Im Sommer 1940 begann die russische Armee die mechanisierten Korps wieder einzuführen. Obwohl die BT-7 langsam überaltet waren, mussten sie an der Front eingesetzt werden. Zu Beginn der Feindseligkeiten an der Ostfront waren 2801 BT-7 Panzer verschiedener Typen eingesetzt. Als die deutsche Invasion am 22. Juni 1941 begann waren die russischen Panzereinheiten komplett unvorbereitet. Trotzdem schlugen einige Einheiten mit dem Modell 1937 zurück. Vor allem die Verteidigungsaktionen der 5. und der 24. gepanzerten Division am Fluss Neman in Lettland und bei Pskov sind bekannt. Die 4. Panzerbrigade von Mikail Katukov, welche Modell 37, T-34 und KV Panzer hatte verzögerte den Vorstoß des deutschen Generals Heinz Guderian nach Moskau bei Mtsenks im Herbst 1941. Die letzten Einsätze des Modells 1937 waren im fernen Osten wo diese „Betushkas“ den Angriff bei Stanovoy in die Mandschurei im August 1945 anführten.

Technische Daten

- Länge : 5,660mm ● Breite : 2,230mm ● Höhe : 2,420mm
- Gefechtsgewicht : 13.9 Tonnen ● Besatzung : 3
- Motor : M-17T V12 flüssigkeitsgekühlter Benzinmotor
- Maximale Leistung : 400hp
- Maximale Geschwindigkeit : 73km/h (mit Rädern), 53km/h (mit Ketten)
- Fahrbereich : 500km (mit Rädern), 375km (mit Ketten)
- Bewaffnung : 45mm 20K Model 1934 Kanone x1 (188 Schuss),
7.62mm DT Maschinengewehr x2 (2,394 Schuss)

Développement des chars BT

A la fin des années 1920, le Conseil Révolutionnaire Militaire de Russie préconisa la mécanisation de l'armée et chercha à acheter des tanks étrangers et leurs licences de fabrication, tout en coopérant secrètement avec l'Allemagne pour développer ses engins blindés propres. Une commission d'investigation dirigée par Innokenti Khalepski acheta des chenillettes Carden Loyd et des tanks Vickers 6 tonnes à la Grande-Bretagne avant de se tourner vers le Etats-Unis où l'inventeur Walter Christie avait présenté un engin équipé d'une "Christie Suspension" lui conférant une très grande mobilité. Le tank était bien adapté à la doctrine russe de "Bataille en Profondeur" et suite à l'achat du prototype et des droits de fabrication, les chars rapides BT-2 et BT-5 furent développés au début des années 1930. La dernière évolution de cette série de tanks était le BT-7, équipé d'un moteur M-17 plus fiable et d'une plus grande autonomie. Il était également doté d'un canon de 76,2mm mais cette arme n'étant pas disponible, il fut équipé de la même tourelle et du même canon de 45mm que le BT-5. 1.544 exemplaires du BT-7 modèle 1935 furent produits entre 1935 et 1937.

Les Leçons de la Guerre Civile Espagnole

En 1936, une guerre civile éclata en Espagne opposant les Républicains de gauche aux Nationalistes de droite menés par le Général Francisco Franco. L'Allemagne et l'Italie soutinrent militairement ces derniers tandis que la Russie fournit son aide aux premiers. Les tanks T-26 que la Russie fournit à partir d'octobre 1936 étaient supérieurs aux Panzers I et II allemands mais leur faible blindage était insuffisant face aux canons antichars de 75mm et 37mm. Il en était de même des BT-5 qui furent déployés sur place en 1937. La Russie lança donc le développement de nouveaux chars à blindage plus épais tout en augmentant la protection des modèles existants. L'accroissement de l'épaisseur blindage entraînant celui du poids, les ingénieurs russes dessinèrent une nouvelle tourelle avec un blindage incliné pour dévier les tirs. Bien que la tourelle précédente soit légèrement inclinée du fait de sa forme cylindrique, la nouvelle tourelle conique avait des côtés inclinés de 15°. Désigné BT-7 Modèle 1937, la production de cette version commença durant l'été de cette année. Alors qu'il entra en service, le corps blindé commandé par le Maréchal Mikhail Tukhachevsky fut dissous et les brigades blindées furent constituées. C'est pourquoi, les nouveaux tanks furent incorporés dans ces brigades aux côtés des BT-7 plus anciens.

Le BT-7 Model 1937 au Combat

Le Modèle 1937 connut son baptême du feu lors des Batailles de

Khalkhyn Gol (Incident de Nomonhan) en août 1939. Le Maréchal Georgy Joukov mena une offensive de grande envergure pour détruire l'armée japonaise et des BT-7 étaient déployés dans les 6^{ème} et 11^{ème} Brigades Blindées. Cette dernière disposait de beaucoup de Modèle 1937 envoyés directement depuis l'usine de Kharkov pour remplacer des pertes.

Les Modèle 1937 furent ensuite utilisés lors de l'invasion de la Pologne en septembre 1939 et il est certain que la 24^{ème} Brigade Blindée qui a capturé Lviv en était équipée.

L'invasion russe de la Finlande, ou Guerre d'Hiver, fut le conflit suivant impliquant des Modèle 1937. Les 13^{ème}, 20^{ème} puis plus tard 1ère Brigades Blindées utilisèrent ces tanks au combat dans la région de Carélie. C'est là qu'une autre faiblesse fut découverte : les surfaces plates des chenilles du BT-7 l'immobilisaient sur la neige.

A l'été 1940, l'armée russe commença à ré-instituer le corps mécanisé. Bien que le BT-7 soit devenu obsolète, la pénurie des tanks T-34 et KV le maintint en service en première ligne. Au dbut des hostilités sur le Front Est, 2.801 tanks BT-7 de diverses versions étaient en service dans les districts militaires de la frontière occidentale de la Russie. Lorsque l'invasion allemande débuta le 22 juin 1941, les unités blindées russes n'étaient pas du tout préparées. Malgré cette situation, plusieurs unités équipées de Modèle 1937 ripostèrent, en particulier les 5^{ème} et 24^{ème} Divisions Blindées, respectivement sur le fleuve Niémen en Lituanie et à Pskov. La 4^{ème} Brigade Blindée du Colonel Mikhail Katukov équipée de Modèle 1937, T-34 et KV stoppa l'avance des forces du Général Heinz Guderian sur Moscou à Mtensk à l'automne 1941. Les dernières actions de combat du Modèle 1937 eurent lieu en Extrême-Orient où ces "Betushkas" menèrent l'offensive dans les Monts Stanovoï en Mandchourie en août 1945.

Caractéristiques

- Longueur : 5.660mm ● Largeur : 2.230mm
- Hauteur : 2.420mm
- Poids en ordre de combat : 13,9 tonnes ● Equipage : 3
- Moteur : M-17T V12 à essence refroidi par liquide
- Puissance maximale : 400cv
- Vitesse maximale : 73km/h (sur roues), 53km/h (sur chenilles)
- Autonomie : 500km (sur roues), 375km (sur chenilles)
- Armement : Canon de 45mm 20K Modèle 1934 x1 (188 obus), mitrailleuse 7,62mm DT x2 (2.394 coups)

BT-7 Model 1937 (11053577)

Military Model Reservation Items



[WWII German Medium Tank...](#)
Amusing H...
1/35
4,080 yen



[B-2 Spirit \(Plastic model\)](#)
Mikro Mir
1/144
6,290 yen



[Short Sunderland Mk. V \(Plastic model\)](#)
Special H...
1/72
6,800 yen



[Doblhoff WNF 342 \(Plastic model\)](#)
Mikro Mir
1/48
3,825 yen



[IJN Special Type Ayanamari](#)
Pit-Road
1/700
Sky Wave
2,550 yen



[Soviet Medium Tank T-28 \(...\)](#)
Zvezda
1/35
4,080 yen



[The Kotobuki Squadron in t...](#)
Platz , P...
1/144
1,870 yen



[German Tiger I Early Prod...](#)
Rye Field...
1/35
9,690 yen



[MiG-21UM Model 1959](#)
KP Model...
1/72
2,805 yen



[IJN Type 96 Carrier Fighter...](#)
Platz
1/144
1,700 yen